

平成23年度(平成22年度対象)

# 三豊市教育委員会 点検・評価報告書

平成23年 8月

三豊市教育委員会

## 目 次

1 はじめに	1
2 教育委員会活動の状況	1
(1) 教育委員会議の開催状況	1
(2) 教育委員会議の審議状況	1
(3) 教育委員会活動の概要	6
(4) 教育委員会に関わるその他の主な活動	9
3 具体的な推進施策の取組状況評価	11
(1) 点検・評価の対象	11
(2) 点検・評価の方法	12
(3) 点検・評価員会開催日及び協議事項	12
(4) 点検・評価結果の構成	13
(5) 点検・評価結果の年度比較	13
(6) 総合評価と各項目別評価の状況	14
(7) 点検・評価結果	15
① 幼児期の教育方針	15
② 小学校・中学校の方針	25
③ 学校等施設耐震化の推進	41
④ 生涯学習の方針	42
⑤ 青少年の健全育成	51
⑥ 人権教育の推進	54
資 料	
1 教育委員会委員及び組織	57
2 公立学校施設の概要	58

## 1 はじめに

この報告書は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第27条の規定に基づき、平成22年度の教育委員会活動を振り返るとともに、本市教育委員会が毎年度示す「三豊市の教育方針」を基に、具体的な推進施策について教育委員会自ら事務の進捗状況について点検・評価を行いました。

## 2 教育委員会活動の状況

### (1) 教育委員会議の開催状況

教育委員会議については、定例会は毎月一回開催、臨時会は必要に応じて開催。平成22年度は合計13回開催しました。

- ① 定例会 …… 12 回
- ② 臨時会 …… 1 回

### (2) 教育委員会議の審議状況

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第23条に定める職務について、同法第26条及び「三豊市教育長に対する事務委任等規則」の規定に基づき、平成22年度は合計で45件について審議いたしました。

- ① 教科用図書を採択すること…………… 1 件
- ② 教育委員会事務局及び学校その他の教育機関の職員(県費負担教職員を除く。)の任免その他の進退を行うこと…………… 1 件
- ③ 県費負担教職員の任免その他の進退について内申を行うこと…………… 1 件
- ④ 教育委員会規則を制定し、及び改廃すること…………… 14 件
- ⑤ 教育委員会の所管に属する各機関及び委員会の委員の任免又は委嘱若しくは解職に関すること…………… 6 件
- ⑥ 就学援助費の認定及び奨学生選考等に関すること…………… 13 件
- ⑦ その他…………… 9 件

○平成22年度 教育委員会審議案件等一覧

開催日時	議案番号	協議事項
H22.4.27(火) (定例会)	議案第1号	三豊市立学校適正規模・適正配置検討委員会公募委員募集要領(案)について
	議案第2号	三豊市立学校適正規模・適正配置検討委員会公募委員選考要領(案)について
	議案第3号	地区公民館長及び主事の推薦について
	議案第4号	要保護・準要保護児童生徒の認定について
H22.5.27(木) (定例会)	議案第1号	要保護・準要保護児童生徒の認定について
	議案第2号	三豊市学校職員の服務に関する規則等の一部を改正する規則(案)について
	議案第3号	三豊市立学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則(案)について
	議案第4号	三豊市立幼稚園の管理運営に関する規則の一部を改正する規則(案)について
	議案第5号	三豊市立幼稚園保育料条例施行規則の一部を改正する規則(案)について
	議案第6号	平成22年度 学校評議員の委嘱について
H22.6.29(火) (定例会)	議案第1号	公民館分館長及び公民館分館主事候補者の推薦について
	議案第2号	三豊市就学援助費支給要綱の一部改正について
	議案第3号	準要保護児童生徒の認定について
	議案第4号	三豊市立幼稚園保育料減免措置の認定について
	議案第5号	三豊市立学校適正規模・適正配置検討委員会委員の委嘱及び任命について
H22.7.27(火) (定例会)	議案第1号	学校教科用図書採択について
H22.8.26(木) (定例会)	議案第1号	準要保護児童生徒の認定について
	議案第2号	三豊市立学校児童生徒大会出場補助金交付要綱の一部を改正する告示(案)について
H22.9.27(月) (定例会)	議案第1号	準要保護児童生徒の認定について
H22.10.20(水) (定例会)	議案第1号	準要保護児童生徒の認定について

開催日時	議案番号	協議事項
H22.11.24(水) (定例会)	議案第1号	要保護・準要保護児童生徒の認定について
	議案第2号	三豊市高瀬町緑ヶ丘総合運動公園条例の一部を改正する条例(案)について
	議案第3号	第5回三豊市立学校適正規模・適正配置検討委員会について
	議案第4号	三豊市学校給食センター進捗状況について
H22.12.17(金) (定例会)	議案第1号	要保護・準要保護児童生徒の認定について
	議案第2号	第6回三豊市立学校適正規模・適正配置検討委員会について
	議案第3号	三豊市学校給食センター進捗状況について
H23.1.17(月) (定例会)	議案第1号	要保護・準要保護児童生徒の認定について
	議案第2号	第7回三豊市立学校適正規模・適正配置検討委員会について
H23.2.22(火) (定例会)	議案第1号	要保護・準要保護児童生徒の認定について
	議案第2号	第8回三豊市立学校適正規模・適正配置検討委員会について
	議案第3号	三豊市学校給食センター進捗状況について
H23.3.11(金) (臨時会)	議案第1号	小・中学校人事異動について
	議案第2号	幼稚園等の人事異動について
H23.3.25(金) (定例会)	議案第1号	三豊市教育委員会の事務局の組織に関する規則及び三豊市教育委員会事務局等の職員の職名に関する規則の一部を改正する規則(案)について
	議案第2号	三豊市奨学金貸付申請の認定について
	議案第3号	平成22年3月要保護・準要保護及び平成23年度要保護・準要保護児童生徒の認定について
	議案第4号	三豊市同和対策就学奨励資金交付要綱の廃止について
	議案第5号	第8回・第9回三豊市立学校適正規模・適正配置検討委員会について
	議案第6号	三豊市学校給食センター進捗状況について
	議案第7号	三豊市B&G海洋センター条例施行規則の一部を改正する規則(案)について
	議案第8号	三豊市高瀬町緑ヶ丘総合運動公園条例施行規則及び三豊市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規則の一部を改正する規則(案)について
	議案第9号	三豊市図書館条例施行規則の一部を改正する規則(案)について
	議案第10号	三豊市公民館長候補者の推薦について
	議案第11号	三豊市地区公民館及び地区公民館主事候補者等の推薦について

○平成22年度 教育委員会議 報告等一覧

開催日時	報告番号	報告事項
H22.4.27(火) (定例会)	報告第1号	図書館長及び職員について
H22.5.27(木) (定例会)	報告第1号	講演会『私の竜馬伝』の開催について
H22.6.29(木) (定例会)	報告第1号	三豊市立学校適正規模・適正配置検討委員会について
H22.7.27(火) (定例会)	報告第1号	運動会の出席について(お願い)
	報告第2号	「三豊の竜馬伝」講演会について(お礼)
	報告第3号	三豊市・洞爺湖町友好都市少年交流事業について
	報告第4号	「これからの三豊市学校給食」について
	報告第5号	第1回 三豊市立学校適正規模・適正配置検討委員会について
H22.8.26(木) (定例会)	報告第1号	三豊市高瀬町緑ヶ丘総合運動公園条例の一部を改正する条例(案)について
	報告第2号	宗吉瓦窯跡史跡公園落成一周年記念行事について
	報告第3号	点検・評価報告書(案)について
	報告第4号	少年育成センター活動状況について(平成22年4月～7月分)
	報告第5号	第2回 三豊市立学校適正規模・適正配置検討委員会について
H22.9.27(月) (定例会)	報告第1号	第3回三豊市立学校適正規模・適正配置検討委員会について
H22.10.20(水) (定例会)	報告第1号	宗吉瓦窯跡史跡公園落成一周年記念行事について(参加依頼)
	報告第2号	第4回三豊市立学校適正規模・適正配置検討委員会について
	報告第3号	三豊市学校給食センターについて
H22.11.24(水) (定例会)	報告第1号	寄付金について
	報告第2号	洞爺湖町フレンドリーツアー受け入れについて
	報告第3号	成人式について
H22.12.17(金) (定例会)	報告第1号	三豊市教育委員会エネルギー管理委員会設置要綱(案)について
H23.1.17(月) (定例会)	報告第1号	少年育成センター活動状況について(平成22年8月～12月)
	報告第2号	三豊市学校給食センター進捗状況について
H23.2.22(火) (定例会)	報告第1号	三豊市公民館条例の一部を改正する条例(案)について
	報告第2号	「織田朱越と三豊」について

開催日時	報告番号	報告事項
H23.3.25(金) (定例会)	報告第1号	平成22年度第3回教育相談状況報告について
	報告第2号	「三豊市市民交流センター落成記念 織田朱越講演会」について
	報告第3号	三豊市生涯学習推進計画について

### (3) 教育委員会活動の概要

#### ① 保育所・幼稚園・小学校・中学校指導訪問

実施日程	平成22年5月17日 ～ 平成22年11月25日
参加者	教育委員5名、主任指導主事2名、指導主事1名、事務局3名
訪問先	保育所5所、幼稚園20園、小学校25校、中学校6校
訪問内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校・幼稚園・保育所経営説明</li> <li>・給食指導</li> <li>・全体指導</li> <li>・講評</li> <li>・保育・授業参観</li> <li>・個別指導</li> <li>・諸帳簿検査</li> </ul>

学校指導訪問日程(学校の生徒数・クラス数・教員数に応じて、1日及び半日を決めています)

月	日	曜日	学校名	日程	教育委員	指導主事・事務局
5	17	月	詫間小学校	一日	建林委員 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局2名
	20	木	松崎小学校	午前	高木委員長 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局2名
			大見小学校	午後	高木委員長 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局2名
	24	月	勝間小学校	午前	山崎委員 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局2名
			上高瀬小学校	午後	山崎委員 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局2名
6	2	水	上高野小学校	午前	建林委員 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局2名
			比地大小学校	午後	建林委員 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局2名
	4	金	財田上小学校	午前	高木委員長 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局3名
			財田中小学校	午後	高木委員長 臼杵教育長	主任指導主事1名 事務局3名
	11	金	仁尾小学校	一日	三池委員 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局3名
	14	月	比地小学校	午前	建林委員	主任指導主事2名 事務局2名
			吉津小学校	午後	建林委員 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局2名
	17	水	下高瀬小学校	午前	建林委員	主任指導主事2名 事務局2名
22	火	勝間幼稚園	午前	三池委員 臼杵教育長	指導主事1名 事務局1名	

月	日	曜日	学校名	日程	教育委員	指導主事・事務局
6	23	水	上高瀬幼稚園	午前	山崎委員 臼杵教育長	指導主事1名 事務局2名
	25	金	二ノ宮幼稚園	午前	建林委員 臼杵教育長	指導主事1名 事務局1名
	29	火	松崎幼稚園	午前	高木委員長 臼杵教育長	指導主事1名 事務局1名
	30	水	神田幼稚園	午前	山崎委員	指導主事1名 事務局1名
7	1	木	神田小学校	午前	三池委員 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局3名
	2	金	大浜幼稚園	午前	建林委員 臼杵教育長	指導主事1名 事務局1名
	5	月	桑山小学校	午前	山崎委員	主任指導主事2名 事務局2名
			笠田小学校	午後	山崎委員 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局2名
	8	木	麻幼稚園	午前	高木委員長 臼杵教育長	指導主事1名 事務局1名
	9	金	大浜小学校	午前	三池委員 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局3名
			箱浦小学校	午後	三池委員	主任指導主事2名 事務局3名
	14	水	南部保育所	午前	建林委員 臼杵教育長	主任指導主事1名 指導主事1名
	16	金	三野保育所	午前	山崎委員 臼杵教育長	主任指導主事2名 指導主事1名
21	水	詫間保育所	午前	高木委員長 臼杵教育長	主任指導主事2名 指導主事1名	
9	10	金	松崎保育所	午前	三池委員	主任指導主事1名 指導主事1名
	15	水	下高瀬幼稚園	午前	建林委員 臼杵教育長	指導主事1名 事務局1名
	17	金	比地二幼稚園	午前	山崎委員 臼杵教育長	指導主事1名 事務局1名
	27	月	大見幼稚園	午前	高木委員長 臼杵教育長	指導主事1名 事務局1名
	29	水	辻幼稚園	午前	三池委員	指導主事1名 事務局1名
10	1	金	曾保幼稚園	午前	山崎委員 臼杵教育長	指導主事1名 事務局2名
	4	月	箱浦幼稚園	午前	建林委員 臼杵教育長	指導主事1名 事務局1名
	5	火	高瀬中学校	一日	三池委員 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局2名

月	日	曜日	学校名	日程	教育委員	指導主事・事務局
10	8	金	二ノ宮小学校	午前	山崎委員 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局2名
		土	麻小学校	午後	山崎委員 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局2名
	14	木	仁尾保育所	午前	三池委員 臼杵教育長	主任指導主事2名 指導主事1名
	15	金	三野津中学校	午前	建林委員 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局3名
	19	火	河内小学校	午前	高木委員長 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局3名
			辻小学校	午後	高木委員長 臼杵教育長	主任指導主事1名 事務局3名
	20	水	平石幼稚園	午後	山崎委員 臼杵教育長	主任指導主事1名 事務局1名・指導主事1名
	22	金	豊中中学校	一日	高木委員長 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局2名
	25	月	詫間中学校	一日	高木委員長 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局2名
	27	水	大野幼稚園	午前	建林委員 臼杵教育長	指導主事1名
	29	金	詫間幼稚園	午前	三池委員 臼杵教育長	主任指導主事1名 事務局2名・指導主事1名
11	5	金	吉津幼稚園	午前	高木委員長 臼杵教育長	指導主事1名 事務局1名
	10	水	河内幼稚園	午前	三池委員 臼杵教育長	指導主事1名
	15	月	和光中学校	午前	山崎委員 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局2名
	17	水	本山小学校	午前	建林委員 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局2名
			大野小学校	午後	建林委員 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局2名
	18	木	豊中幼稚園	一日	高木委員長 臼杵教育長	主任指導主事1名 事務局1名・指導主事1名
	22	月	仁尾中学校	午前	三池委員 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局1名
			曾保小学校	午後	三池委員 臼杵教育長	主任指導主事2名 事務局2名
25	木	財田幼稚園	午前	高木委員長 臼杵教育長	主任指導主事1名 事務局1名・指導主事1名	

② 三豊市教育協議会

実施日程 平成22年12月17日(金) 午後2時30分～午後4時45分  
 参加者 議長・総務教育常任委員長  
 三豊市教育委員5名、三豊市・観音寺市学校組合教育委員4名  
 教育委員会事務局 部長・課長等 10名  
 主任指導主事 2名、指導主事 1名  
 健康福祉部 子育て支援課 2名(課長・保育所担当)  
 小・中学校校長33名、幼稚園長20名、保育所長等10名

協議内容

- 幼稚園、小学校、中学校 代表園長・校長取組発表
- 県外合同視察研修報告  
     幼稚園部門、学習指導部門、生徒指導部門
- 意見交換

(4) 教育委員会に関わるその他の主な活動(教育委員が出席した主な活動等)

月	各種行事・大会等	
	三豊市関係	国・県関係
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小中学校教職員赴任式</li> <li>○ 幼稚園入園式、小・中学校入学式</li> <li>○ 保・幼・小中学校長合同研修会</li> <li>○ 小中学校教頭研修会</li> <li>○ 事務事業点検・評価員会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 香川縣市町教育委員会委員長・教育長会議</li> <li>○ 西部地区教育長会</li> <li>○ 三観地区小・中学校教育協議会</li> <li>○ 四国都市教育長連絡協議会総会</li> <li>○ 香川県公民館連絡協議会役員会</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 保・幼・小中学校長合同研修会</li> <li>○ 子ども会育成連絡協議会</li> <li>○ PTA連絡協議会・手をつなぐ親の会総会</li> <li>○ 文化財保護協会・体育協会総会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 香川縣市町教委連絡協議会定期総会</li> <li>○ 三観地区市教育委員会連絡協議会春季総会</li> <li>○ 学校給食会三・観支部総会・研修会</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 市議会6月定例会(本会議・一般質問)</li> <li>○ 青少年健全育成市民会議総会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 三観地区学校保健会総会・研修会</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小中学校教頭研修会</li> <li>○ 学校適正規模・適正配置検討委員会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 西部地区教育長会</li> <li>○ 学校給食会三・観支部夏季研修会</li> </ul>

月	各種行事・大会等	
	三豊市関係	国・県関係
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校適正規模・適正配置検討委員会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 香川縣市町教委連絡協議会教育長部会運営委員会</li> <li>○ 香川縣市町教委連絡協議会理事会</li> <li>○ 香川県公民館研究大会</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 市議会9月定例会(本会議・一般質問)</li> <li>○ 幼稚園・小中学校運動会</li> <li>○ 保・幼・小中学校長研修会</li> <li>○ 学校適正規模・適正配置検討委員会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 三観地区小中学校結核対策委員会</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小中学校長現場研修会</li> <li>○ 学校適正規模・適正配置検討委員会</li> <li>○ 宗吉瓦窯跡史跡公園落成一周年記念行事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 香川縣市町教委連絡協議会教育長部会研究集会・委員研修会</li> <li>○ 西部地区教育長会</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 市議会臨時議会</li> <li>○ 小中学校教頭研修会</li> <li>○ 学校適正規模・適正配置検討委員会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 三観地区市教育委員会連絡協議会秋季総会</li> <li>○ 四国地区市町村教育委員会協議会</li> <li>○ 三観地区小学校教育研究発表会</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 市議会12月定例会(本会議・一般質問)</li> <li>○ 三豊市教育協議会</li> <li>○ 保・幼・小中学校長会研修会</li> <li>○ 学校適正規模・適正配置検討委員会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 西部地区教育長会</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 市成人式</li> <li>○ 学校適正規模・適正配置検討委員会</li> <li>○ 小中学校教頭研修会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 西部地区教育長会</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 市議会臨時議会</li> <li>○ 保・幼・小中学校長合同研修会</li> <li>○ 事務事業点検・評価員会</li> <li>○ 学校適正規模・適正配置検討委員会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 香川縣市町教育委員会委員長・教育長会議</li> <li>○ 三観地区教育委員会連絡協議会研修視察</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 市議会3月定例会(本会議・一般質問)</li> <li>○ 学校適正規模・適正配置検討委員会</li> <li>○ 幼稚園修了式</li> <li>○ 小中学校卒業式</li> <li>○ 小中学校教職員離任式</li> </ul>	

### 3 具体的な推進施策の取組状況評価

#### (1) 点検・評価の対象

点検・評価の対象は、本市教育の総合的な指針である「三豊市教育方針」に基づく平成22年度の重点課題の項目としています。

#### ○ 評価項目の一覧

1 幼児期の教育方針
① 信頼される幼稚園
② 幼稚園における教育の充実
③ 子育て支援の充実
④ 子どもの成長を支える連携
2 小学校・中学校の方針
① 信頼される学校
② 確かな学力の向上
③ 豊かな心の育成
④ 健やかな体の育成
⑤ 社会の変化に対応する力
3 学校等施設耐震化の推進
子どもたちが安全な学校施設で、安心して学ぶことができる教育施設等の整備
4 生涯学習の方針
① 自ら学び、生きがいを創造する生涯学習の推進
② 特色ある地域文化の醸成
③ 地域の教育力の向上、地域の教育機能の活性化
④ 家庭の教育力の向上
⑤ 進んで運動に親しむ機会の充実
5 青少年の健全育成
青少年教育の充実
6 人権教育の推進
① 学校人権教育の推進
② 社会人権教育の推進

## (2) 点検・評価の方法

点検・評価にあたっては、主管課において、重点課題に対して実施した事業ごとに点検・評価を行い、教育委員会は、各主管課の評価をもとに重点課題の項目ごとに評価を行いました。

また点検・評価にあたっては、教育に関し学識経験等を有する方のご協力を得て、点検・評価委員会を開催し、さまざまな意見や助言を得ました。

助言等をいただいた方は、次のとおりです。

(敬称略)

氏名	所属
山神 眞一	香川大学教育学部教授
中田 清	元学校長
小林 静夫	公民館運営審議会会長
池田 たか子	元主任民生児童委員
吉田 英子	三豊市PTA連絡協議会代表

## (3) 点検・評価委員会開催日及び協議事項

開催日	参加者	協議事項
H23.2.15 (火)	点検・評価員 教育長・教育部長 教育委員会事務局 関係各課長ほか	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 教育委員会の事務事業の点検・評価の概要について</li><li>・ 平成22年度三豊市教育方針について説明</li><li>・ 平成23年度三豊市教育委員会点検・評価のスケジュールについて</li><li>・ 平成23年度 点検・評価表(中間報告)について</li></ul>
H23.4.25 (月)	点検・評価員 教育長・教育部長 教育委員会事務局 関係各課長ほか	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 平成23年度三豊市教育委員会点検・評価表について</li><li>・ 平成23年度三豊市教育委員会点検・評価報告書(案)について</li><li>・ 平成23年度三豊市教育方針について</li></ul>
H23.6.3 (金)	点検・評価員 教育長・教育部長 教育委員会事務局 関係各課長ほか	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 平成23年度三豊市教育委員会点検・評価報告書(案)について</li></ul>

#### (4) 点検・評価結果の構成

##### ① 評価対象

「平成22年度三豊市教育方針」の6つの重点課題の項目ごとに点検・評価を行っています。

##### ② 具体的な取組内容及び実施した事業内容

各重点課題の目標達成に向けて、主に取り組んだ事業内容等を示しています。

##### ③ ◎○得られた成果 ●課題と今後の取組み

事業を実施したことによって得られた成果及び課題等を示しています。

※ ◎特に成果があった項目

##### ④ 内部評価

計画目標に対し、取組みの進捗状況等を踏まえ、外部の方々からのご意見を参考にしながら、客観的にA～Eの5段階評価を行っています。

(評価判断基準)

A ……十分な成果を得た

B ……ほぼ成果を得た

C ……ある程度の成果を得たが、多少の改善検討が必要

D ……満足のいく成果が得られず、事業の見直しが必要

E ……中止、廃止

##### ⑤ 担当課

事業を実施した担当課の名称を示しています。

#### (5) 点検・評価結果の年度比較(評価得点・A～E評価)

##### ① 評価得点の上下による年度比較

	23年度		22年度
	評価数	(増減)	評価数
前年度より上昇	32	5	27
同じ	14	8	6
前年度より下降	12	△13	25
評価数 合計	58	0	58

##### ② 評価(A～E評価)ごとの年度比較

	23年度		22年度		21年度
	評価数	(増減)	評価数	(増減)	評価数
A	2	△2	4	3	1
B	34	6	28	△2	30
C	22	△4	26	△2	28
D	0	—	0	—	0
E	0	—	0	—	0
評価数 合計	58	0	58	△1	59

## (6) 総合評価と各項目別評価の状況

点検・評価委員会の総合評価と各項目別評価

総合評価		全体評価
(全体評価)		三豊市の教育方針に基づいた具体的な取り組みが年々充実した成果を収めてきている。その背景には、重点課題の共有化と評価に対する真摯な姿勢が考えられる。また、評価内容と評価様式の改善についても、わかりやすく、焦点化されており、次年度への課題がより明確化している点は、大いに評価できる。尚、小学校・中学校の評価に関しては、それぞれの校種毎の評価に改めることを提案したい。
項目別評価	① 幼児期の教育方針	昨年と同様に厳しい評価基準をもって、評価する傾向にあるが、全体としては、昨年よりもB評価が増え、評価が上がっている。中でも健康な心と体の育成と創造する心の育成に成果が表れていることは、幼児期の教育の充実の基盤を保証するものであり、次年度以降もさらなる充実が望まれる。また、幼児期における基本的な生活習慣の改善に向けて、保護者との協同と幼小連携の充実に力を入れる必要性を感じる。
	② 小学校・中学校の方針	新学習指導要領の実施を目前にして、小学校・中学校の事業内容は、信頼される教師の育成や基礎・基本を定着させる教科学習に力を注ぐとともに、個を大切に特別支援教育や人権教育の充実にも成果が表れてきている。ただ、児童生徒が将来の夢に向かって歩む進路指導やキャリア教育に関しては、学校種や学校による取組の濃淡が見られ、改善の余地がある。また、情報化教育と理数教育の推進も課題となっている。
	③ 学校等施設耐震化の推進	学校施設耐震化率は、香川県内、全国平均を大きく上回っており、子ども達の安心・安全に向けた教育施設等の整備は、十分であると言えよう。今後は、適正規模・適正配置の答申を基にして、さらに適正なる学校施設耐震化を進めてもらいたい。
	④ 生涯学習の方針	生涯学習の評価は、昨年度に比してA評価が減少したものの、全般的な生涯学習の事業自体は、充実していた。特に、子どもの読書活動の推進に関しては、ボランティアの協力を得て、乳幼児期から読書に親しむ環境づくりや、家庭、地域社会、学校など社会全体での読書活動を展開している。地域の活性化に向けて、地域文化の醸成、人の活用・協同体制の充実が生涯学習の成果に連動している。課題としては、地域で子どもを育てる土壌と体制の構築に向けた取り組みの活性化が挙げられる。
	⑤ 青少年の健全育成	「地域で見まもり・地域に教わり・地域で育てる」という基本方針のもと、各学校区ごとの指導・補導体制の充実と拡充がなされている。また、青少年健全育成市民会議の活発化が学校や地域が行う健全育成活動を充実したものにしている。次年度に向けては、青少年の相談活動を相談環境の整備と言う観点から重点課題として取り組んでほしい。
	⑥ 人権教育の推進	人権教育の組織活動の推進、研修会の充実、人権教育指導者の育成については、十分なる取り組みがなされていると言えるまでに至っていない現状にあるが、保・幼・小・中学校の連携や人権教育教材集・人権教育紙芝居の活用に関しては、充実した成果が表れている。

(7)点検・評価結果

担当課：学校教育課

① 幼児期の教育方針			
基本方針	心身ともに健やかに成長するための教育の推進		
項目	① 信頼される幼稚園		
	具体的な取組内容及び実施した事業内容	◎○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
	<p><b>(1) 特色ある幼稚園経営</b></p> <p>① 保護者総会や保育参観・行事等で、教育・保育方針や取組などを積極的に説明し、保護者や地域の人の幼稚園運営への理解と協力を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入園式、PTA総会、参観等で保護者に教育方針や取組みを具体的に話をする。</li> <li>・ アンケートを実施し、結果や回答を保護者に返していく。</li> <li>・ 評議員会・公民館活動・地域の人との交流の場等を利用し、園経営の説明を行う。</li> </ul> <p>② 特色ある幼稚園経営に取り組むために、子どもの発達や地域の実態に即した具体的な目標を設定し、自己評価に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昨年度の反省と今年度の幼児の実態を基に、地域の人意見も取り入れ、教育課程の再編成をする。</li> <li>・ 目標申告、評価表を作成し、園や学級経営に反映させる。</li> </ul>	<p>◎ 園への信頼が得られるようになり、保護者の行事等への参加の仕方や見る視点が変わってきた。</p> <p>◎ 様々な意見や感想を聞くことで、行事の見直しができ、次へ生かすことができた。</p> <p>◎ 地域の人たちの幼稚園教育への意識、期待が高まり、励ましの言葉をかけてくれるようになった。</p> <p>● 教育方針や取組みの伝え方を工夫し、多くの人の理解が得られるようにする。</p> <p>● 様々な意見を経営や保育にどう生かしていくかを考えると共に、アンケート内容の検討をしていく。</p> <p>◎ 園経営の具体的な方法を示すことで、全職員が共通した意識で学級経営に取り組めた。</p> <p>◎ 個々の取組みの視点や評価等が明確になり、課題が具体的にわかってきた。</p> <p>● 具体的に話し合いのポイントを決め、園内研修で方向性や子どもの育ちを捉えていく。</p> <p>● 目的をより明確にし、評価の生かし方を検討していく。</p>	C
	<p><b>(2) 職員の資質向上</b></p> <p>① 日々の保育記録を基に、子ども一人一人に応じた言葉かけをしたり、じっくりと話を聞いたりして、乳幼児理解に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員が共通認識しながら、個人記録や評価表を作成し、個々に応じた支援を大切にす。</li> <li>・ 支援を要する幼児を基にスクールカウンセラーや巡回相談等を活用し、幼児理解を深める。</li> </ul>	<p>◎ 個人記録を充実させることで、個々に応じた保育ができ、学級経営に生かした。</p> <p>◎ 個々に応じて丁寧にかかわることで、幼児の成長が感じられた。</p> <p>◎ 職員間での話し合いや専門家の話を聞くことで、記録の書き方が明確になり、保護者への対応もしやすくなった。</p> <p>● 研修や記録を書く時間を確保し、今後も継続して取組み、幼児理解をさらに深めていく。</p> <p>● 記録の取り方、生かし方をさらに研修し、保育につなげていく。</p>	C

項目	① 信頼される幼稚園	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	◎○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p>② 子どもが安全で安心して教育・保育を受けられるように、職員の危機管理意識を高め、月1回の遊具の安全点検や年間計画に応じた避難訓練を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>緊急対応マニュアルや安全計画等を見直し、職員間での共通理解を図りながら遊具や室内の安全点検を行う。</li> <li>専門機関と連携し、不審者対応・地震・火災等の避難訓練を行ったり、視聴覚教材を利用した幼児への意識付けを行う。</li> <li>保護者参加や小学校との合同訓練を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 定期的な訓練をすることで、職員の危機管理意識が高まり、日常から環境整備を進んで行うようになった。</li> <li>○ 専門家の指導を受けることで、職員が状況に応じた行動がとれるようになってきた。また、幼児も緊急時の対応がわかり、意識も高まってきた。</li> <li>○ 保護者や小学校との連携ができ、協力体制ができてきた。</li> <li>● 効果的な訓練を行い、訓練等の事前、事後の話し合いの時間を確保する。また、反省・改善策を出し合い、今後に生かしていく。</li> <li>● 感染症等に関して、反省会・周知会を持ち、不測の事態に対応できるようにする。</li> </ul>	
(3) 園内研修の充実		
<p>① 全職員が統一した意識で教育・保育に取り組むために、教育・保育方針や内容などの園・所内研修を計画的に行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年度当初に、全職員で教育方針の確認と年間計画の作成を行う。</li> <li>園内研修を定期的に行い、内容の充実を図る。</li> <li>全人研・10年研・新採研等、園の実情を踏まえた研修を行う。</li> </ul> <p>② 実践保育や事例協議等を積み重ね、個々の子どもを理解するための研修に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究保育や事例研修の場で、意見を出し合い、自分の保育の振り返りを行う。</li> <li>幼児の発達の姿を知り、今後の支援方法の共通理解を行う。</li> <li>外部の先生からも指導を受ける場をもち、研修を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 幼児教育の基本を再確認し、共通理解しながら実践したことで、幼児理解が深まった。</li> <li>○ 園内研修を重ねることで、話し合いが深まり、課題意識が持てるようになってきた。</li> <li>○ 職員の意思統一ができ、チームワークができてきた。</li> <li>● 時間の確保、研修の体制作りを行い、リーダーの育成に取り組んでいく。</li> <li>● 計画性をもって実施し、職員がアイデアを出し合いながら積極的に研修できるようにする。</li> <li>○ 研究保育や事例研修では、お互いに刺激を受け、自分の保育を見直したり、教材研究を行うことができた。</li> <li>○ 共通理解を行うことで、園児を全職員で見ているという意識が高まった。</li> <li>○ 様々な意見を聞くことで、幼児理解が深まり、関わり方に見通しがもてた。</li> <li>● 子どもの育ちを見る目を養うために、継続した取り組みを行っていく。</li> <li>● 専門性を高められるような研修を実施し、教師一人一人が力を付けるようにする。</li> </ul>	C

項目	① 信頼される幼稚園	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	◎○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p>③ 発達や学びの連続性を大切にするために、幼稚園・保育所と小学校・中学校が互いに教育・保育内容を学びあう幼保小合同研修の機会等を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 就学前保・幼合同研修や小学校区での合同研修会などを実施したり、指導訪問に参加し、教育方針や内容の理解を図る。</li> <li>・ 異校種間での交流活動、授業参観等を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子どもの育ちをつなげていく点で、お互いの立場で話し合いができ、共通理解ができた。</li> <li>◎ 小学校へつないでいくものや園での指導の方向性が分かり、具体的な取り組みができた。</li> <li>◎ 何度か話し合いの場をもつことで、校種を越えた気持ちの交流もでき、言い易い関係になった。</li> <li>● 継続的に取り組んで行けるように計画を立て、時間の確保や内容の充実を図る。</li> </ul>	

項目	② 幼稚園における教育の充実	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	◎○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p><b>(1)健康な心と体の育成</b></p> <p>① 子どもの発達や興味を踏まえた園外保育や集団遊びを計画的に取り入れ、体を動かすことが好きな子どもを育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画的に園外保育を実施し、四季を通して地域の自然に親しむ。</li> <li>・ 全園活動で集団遊びや運動遊び等を行い、体を動かす楽しさを味わわせる。</li> <li>・ 地域の人や異種間交流の際に、伝承遊びや集団遊び等を取り入れたり、家庭へ徒歩通園を勧めている園もある。</li> </ul> <p>② 遊びが発展・連続するようにクラス目標や個人目標を決めるなどの環境を工夫し、やり遂げる力の育成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 頑張り大会・マラソン大会等を実施したり、自己目標の達成がわかるように、頑張りカード・メダル・シール等を活用する。</li> <li>・ 家庭に、園での様子をクラス便り等で紹介する。</li> </ul> <p>③ 幼稚園生活の中で教員が手本となり、日々の繰り返しの中で子どもの自立心を育て、生活に必要な習慣や態度を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園生活の基本的なことを園全体で統一し、挨拶や食事のマナー、片付け等、ポイントを絞った指導を行う。</li> <li>・ 3年間の育ちを見通した、一貫性のある指導を行う。</li> </ul>	<p>◎ 遊びを通して体力向上につながり、幼児自身が、体を動かすことを楽しんだり、挑戦意欲が高まった。</p> <p>◎ 友達や地域の人たちとのふれあいを楽しみにし、喜んでかかわる姿が見られた。</p> <p>○ 登降園時に歩く子が増えてきた。</p> <p>● 年齢別の指導計画を作成し、3年間を見通した取組みをする。</p> <p>● 地域の自然の掘り起こしや、地域の教育力を生かした交流活動を取り入れる。</p> <p>○ 挑戦意欲が高まり、目標をもって取り組んだり、やり遂げた満足感を味わう等、個々の成長が見られた。</p> <p>○ 家庭へ発信していくことで、保護者からの協力が得られるようになった。</p> <p>● 経験に個人差があるので、挑戦意欲や自信につながるような環境を工夫する。</p> <p>◎ 基本的な生活習慣が身に付いてきている子が増えてきた。特に、挨拶の習慣が身に付いてきた。</p> <p>○ 基本的な生活習慣に向けての保護者の意識が高まってきた。</p> <p>● 個人差を考慮しながら、園と家庭が統一して取り組めるよう、さらに連携を密にしていく。</p>	B
<p><b>(2)豊かな心の育成</b></p> <p>① 互いが気持ちよく生活していくために、我慢したり約束を守ったりする力を身につけるための遊びの充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当番活動やルールのある集団遊び等を、クラス単位だけでなく異年齢活動でも計画的に取り入れる。</li> <li>・ 絵本の読み聞かせを行ったり、人権紙芝居を保育に活用する。</li> </ul>	<p>○ 異年齢のかかわりの中で、我慢したり相手の気持ちを受け入れたりできるようになってきた。</p> <p>○ 仲間意識の芽生えやルールを守る大切さが身についてきた。</p> <p>● 遊びの中で、規範意識や抑制力を身に付ける場や状況を捉え、繰り返し指導していく。</p> <p>● 自己表出したり、相手の気持ちに気付いていける支援方法を工夫する。</p>	C

項目	② 幼稚園における教育の充実	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	◎○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p>② 地域の様々な行事に参加するなどの直接体験を重ねていくことにより、自分が育った地域に対する愛着心を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体育祭・文化祭・祭り等、地域の行事に参加する。</li> <li>・ 地域の人や保護者も一緒に交流できる内容を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域の行事に参加し、地域の人と挨拶を交わしたり頑張りを褒めてもらったことで、地域に愛着をもち始めている。</li> <li>○ 子どもと共に保護者も参加することで、園での取組みが家庭へもつながった。</li> <li>● 行事が多いため、幼児にとって必要なものを精選していく必要がある。</li> </ul>	
<b>(3)人とかかわる力の育成</b>		
<p>① 人と関わることの基になる「おはよう」や「ありがとう」を習慣づける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 挨拶は職員からという意識をもち、幼児の顔を見て挨拶することを心がける。</li> <li>・ 中学校区でリーフレットを作成し、一貫した指導を行う。</li> <li>・ 生活習慣カード等を利用する。</li> </ul> <p>② 自分の思いを言葉で伝えたり、相手の思いを聞き、気づいたり理解したりする力が育つ集団活動の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 異年齢交流の機会を多くもつ等、友達との関わりができるような環境を工夫する。</li> <li>・ トラブルの機会を捉え、話し合う場をもつ。</li> <li>・ 幼児が友達や保護者へ言葉で伝えられるような場や状況作りをする。</li> </ul> <p>③ 小中高生・地域の人など、幅広い人と交流の機会をもち、いろいろな人と関わる経験ができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学生職場体験、小学校や保育所との計画的な交流会等を実施する。</li> <li>・ 幼稚園開放日を設置し、地域のお年寄りや未就園児等との交流を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 職員が意識することで、幼児が自分から挨拶をし始め、しだいに定着してきた。</li> <li>○ 教師にはもちろん、来園者や地域の人にも挨拶ができるようになってきた。</li> <li>○ 家族で取り組んでもらえ、保護者にも挨拶の輪が広がりつつある。</li> <li>● 状況に合った挨拶や返事ができるよう、教師が手本となり示していく。</li> <li>● 今後も家庭と連携し、地域ぐるみで挨拶運動を進めていく。</li> <li>○ 異年齢交流の場で、年少者を気遣う姿が見られるようになってきた。</li> <li>○ 仲間意識が育ちつつあり、トラブルの際にお互いに意見を言い合ったり、思いを受け入れたりする姿が見られるようになってきた。</li> <li>○ 教師が子どもの思いを十分に聴く姿勢が見られるようになった。</li> <li>● 年少児を気遣っても、同年齢間ではまだ友達の思いを受け入れられなかったりするので、クラスでの話し合いの場を大切にしていく。</li> <li>● 幼児の思いを汲み取りすぎ、教師が出すぎてしまうことがあるので、状況にあった支援の仕方を考える。</li> <li>○ 継続した交流を行うことで、親しみを感じ、かかわりを楽しむようになってきた。</li> <li>○ 普段と違う体験ができ、いろいろな人から受け入れてもらうことで、相手を思いやる姿が見られ、心の育ちにつながっている。</li> <li>● 今後も計画的に交流し、かかわりを深めていくようにする。</li> <li>● 職員の異動等で地域との関係が薄れつつあるので、密な引継ぎが必要である。</li> </ul>	C

項目	② 幼稚園における教育の充実	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	◎○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p><b>(4)創造する力の育成</b></p> <p>① 砂や粘土、自然物など可塑性があり、子どもがイメージをもって遊べる素材に出会わせることで、考えたり工夫したりする力を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 早朝保育や預かり保育などにも、自由に使えるような教材を準備する。</li> <li>・ 自然物を使った遊びや泥団子作り等、幼児が夢中になって遊べるよう、教材研究を行う。</li> <li>・ 親子や祖父母との作品作りを行っている園もある。</li> </ul> <p>② 園外保育などで自然体験や社会体験を多く取り入れ、物事に自らかかわっていかうとする意欲や探究心等が高まるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 泥んこ遊びや海岸での砂遊び等、四季折々の自然に触れて遊んだり、地域の人の協力を得て、野菜作りやお茶会等、様々な体験をする。</li> <li>・ バスや電車を利用したり、防災センターなどの施設見学をする。</li> <li>・ 保護者も一緒に体験活動をする機会を設ける。</li> </ul>	<p>◎ 汚れることを気にせず、伸び伸びと遊んだり、イメージを膨らませながら、遊びを発展させたりし、繰り返し遊ぶ姿が見られるようになった。</p> <p>◎ 『夢中になって遊びこむ子ども』を育てるには、ゆとりある時間と環境が大切だと、職員間で共通認識ができた。</p> <p>◎ 保護者も楽しんで参加でき、制作意欲が高まった。</p> <p>● 教師も共にかかわりながら、幼児が工夫したり、不思議さや疑問に思うことに気づいたりする姿を認めていくことが大切である。</p> <p>● 子どもの状態を見ながら、見直しや教材研究をしていく。</p> <p>◎ 同じ場所に出かけることで自然の移り変わりを感じ、興味や関心、探究心、感動する気持ち等が高まった。</p> <p>◎ 栽培活動を通して、生長の喜びや命の不思議さを感じたり、嫌いだったものが食べられるようになったりした。</p> <p>◎ 公共施設でのマナーや約束事に気づけた。</p> <p>● 今年度経験した活動を見直し、幼稚園生活3年間を見通した園外保育計画を作成する。</p> <p>● 教師が地域の実態を把握し、安全面に留意する。</p>	B
<p><b>(5)個に応じた教育の推進</b></p> <p>① 子ども一人一人の行動と内面を理解するために個人記録を書き、発達に必要な経験が得られるように教育内容を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日々の保育記録と共に、幼児一人一人の行動記録を書き、幼児理解に努める。</li> <li>・ 支援を要する幼児に対して、実態を基に指導計画を作成する。</li> </ul>	<p>◎ 行動記録から幼児の心の動きや友達関係が分かり、保育に生かされた。</p> <p>◎ 一人一人の発達を捉え、課題を明らかにすることで、個々に合った支援ができた。</p> <p>● 専門機関との連携や文献での研修等しながら、適切な支援ができるようにする。</p>	C

項目	② 幼稚園における教育の充実	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	◎○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p>② 職員全員で子ども一人一人の指導にあたるために、常に情報を交換し、チーム保育などの指導体制の工夫に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 共通理解をするために、毎朝ミーティング、降園後の話し合い等、随時情報交換を行う。</li> <li>・ 記録を基に、園内研修等で指導方法や支援について話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 職員間で助け合ったり、クラス以外の子に臨機応変に対応する等、全職員で全園児を育てていく体制ができてきた。</li> <li>○ 職員同士が幼児に対して、一貫性をもった指導ができるようになってきた。</li> <li>○ 全職員で保育の悩み等を話し合うことで、問題解決をすることができた。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 気軽に情報交換や協力ができる雰囲気作りに心掛ける。</li> <li>● 人数が多いため、園全体を見て動くことが難しいので、情報交換の方法や内容の検討が必要である。</li> </ul>	

項目	③ 子育て支援の充実	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	◎○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p><b>(1) 子育てのための環境づくり</b></p> <p>① おたより(園・組)・送迎時の話し合い等を通して、基本的な生活習慣や社会的規範を身につけさせる場である家庭の役割を啓発していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園便り、クラス便り、食育便り、連絡帳等を活用し、保護者啓発をする。</li> <li>・ 送迎時の保護者との何気ない会話を大切にしている。</li> </ul> <p>② 保護者が子どもとかかわる楽しさや子育ての方法を学べるように、子育て講演会や親子体操などの親子のふれあい活動の機会を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 親子体操、親子クッキング、保護者ボランティアによる絵本の読み聞かせ等、親子で過ごす楽しさが味わえる遊びを取り入れる。</li> <li>・ 母親だけでなく、父親・祖父母・家族参加などを取り入れる。</li> </ul> <p>③ 子育てに関する相談ができる場や保護者間交流の場を設けたり、その内容を工夫したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 降園後に園庭を開放し、親子で遊んだり、保護者が交流できる場にする。</li> <li>・ 幼稚園開放、クラス座談会、個人懇談等を実施する。</li> <li>・ 地域のお年寄りにおやつや手芸を教わったり、講師の先生による相談会を行っている園もある。</li> </ul>	<p>◎○得られた成果 ●課題と今後の取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 園から様々な情報を発信したことで、生活習慣の大切さに気づき見直そうとする保護者が増えた。</li> <li>○ 教師がお便りの内容を見直し、保護者に伝わるような書き方を工夫するようになった。</li> <li>● 園からの発信内容が保護者にどう伝わっているか把握できにくい。</li> <li>● 関心の薄い保護者への発信方法・内容を検討する必要がある。</li> <li>○ 保護者も遊びに参加することで、家でも親子で触れ合って遊び、育児に楽しみを見出している様子が伺えた。</li> <li>○ 幼児と父親や祖父母との関係が縮まり、送迎にも来る回数が増えた。</li> <li>● 参観に来なかったり、講演での私語が多かったりするので、協力してもらえるような啓発を工夫する。</li> <li>● 子育てが楽しいと思えるような内容を考えていく。</li> <li>○ 悩みを話し合うことで、保護者同士が仲良くなったり、保護者のストレス解消につながった。</li> <li>○ 保護者と職員のコミュニケーションが取れたり、信頼作りにつながった。</li> <li>● 保護者同士が話に夢中になり、我が子を見ていないことが多く危険なので、園庭開放の主旨を保護者に繰り返し知らせる必要がある。</li> <li>● 保護者との信頼関係を深め、気軽に相談しやすい雰囲気作りに努める。</li> </ul>	C

項目	④ 子どもの成長を支える連携	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	◎○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p><b>(1)家庭や地域社会との連携</b></p> <p>① 保育参加や総会等を通して、保護者が見通しをもって子育てができるように、幼稚園の取組や保育内容等を積極的に話し、就学前の教育の大切さを知らせ、理解と協力を得るようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 就学前に大切なこと、育てたいものなどを分かり易く書いたプリントを保護者に配布したり、参観や行事の度に伝えたりする。</li> <li>・ 生活習慣のアンケートを行い、結果を返していく。</li> </ul> <p>② 地域の人々の思いを聞いたり、幼稚園の取組を説明したりして、子育て支援にどう取り組んでいくかを話し合い、より良い支援活動を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公民館、社会福祉協議会、体育協会等、地域の会や行事に参加したり、未就園児の保護者、お年寄りとの交流の場で、園の様子を伝えていく。</li> <li>・ 評議員会で意見を聞いたり、外部アンケートを行う。</li> </ul>	<p>○ 機会を捉え、保護者に伝えたことで、就学前の家庭教育の大切さを保護者が認識してきた。</p> <p>○ アンケートにより、率直な意見を聴くことができ、理解・協力を得ているのがわかった。また、評価にも生かしている。</p> <p>● 今後も継続して、就学前の家庭教育の大切さを伝えていく。</p> <p>● 園が様々な保護者の悩みを受け止めて、情報を発信できるようにしていく。</p> <p>○ 地域の人との信頼関係が深まり、園の取組みが理解され、また楽しんで行事に参加してくれ、積極的な協力を得ることができた。</p> <p>○ 園とは違った視点での意見が聞けて、参考になった。</p> <p>● 今後も継続して効果的、計画的に取り組んでいく。</p> <p>● 地域の人が気軽に参加できるような雰囲気作りや行事等を工夫する。</p>	C
<p><b>(2)小学校との連携</b></p> <p>① 就学前教育は、幼稚園と保育所がともに進めることや、小・中学校の生活や学習につながることから、幼・保・小・中の子どもの交流や職員の合同研修をもち、互いの活動内容や指導方法などの共通理解を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育所・幼稚園の5歳児と小学生との交流を計画的に行う。</li> <li>・ 指導訪問時にお互いに参加したり、職員同士の研修の場を確保する。</li> </ul>	<p>○ 子どもたちも互いに親しみを持ち、小学校へ行くことを楽しみにしている。</p> <p>○ 子どもの育ちについての共通理解ができ、小学校へつなげたり、そろわせていく具体的な指導内容が見えてきた。</p> <p>◎ お互いの教育を知るよい機会になり、職員同士の信頼関係が深まった。</p> <p>● 交流内容を見直しながら、継続して取り組んでいく。</p> <p>● 保育所・幼稚園・小学校ごとに、交流や研修ができる時間帯が異なるため、時間の確保と連携方法を考えていく。</p>	C

項目	④ 子どもの成長を支える連携	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	◎○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p><b>(3) 子育て関係機関との連携</b></p> <p>① 子育て関係機関のパンフレット等を配布し、その機能や役割を保護者に知らせることで、気軽に利用できるよう支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ あみあみ通信、ファミリーサポート通信の配布、図書館や公民館等のお知らせを掲示する。</li> <li>・ 保護者へ、子育て支援センターや教育相談等への呼びかけをする。</li> </ul> <p>② 諸問題の予防と早期発見、またその対応のために、地域の関係機関・施設等とのネットワークの強化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 町単位で所長園長校長会を定期的に行き、お互いの情報交換をしている。</li> <li>・ 支援を要する幼児について、巡回相談や連携訪問を活用したり、専門機関との連携を図る。</li> <li>・ 感染症予防のため、子育て支援課や保健所等、諸機関との連携や、パンフレットの配布を行う。</li> </ul>	<p>◎ ○ 図書館や支援センターへの利用者が増えてきた。</p> <p>◎ ○ 子育ての手段や悩み解決の参考になり、園との共通意識につながった。</p> <p>● 今後も園から情報発信を積極的に行い、関心を広めていく。</p> <p>● 発信しても、状況の把握が十分でなかったため、職員が内容を理解し、説明や支援が行えるようにする。</p> <p>● 子育て支援機関との連携のあり方を検討する。</p> <p>○ 違った立場から幼稚園に対する意見を聞くことができ、保護者支援にもつながった。</p> <p>○ 専門機関からのアドバイスをもらうことで、支援や指導の参考になり、適切な環境作りができた。</p> <p>○ 職員の感染症に対する意識が高まった。</p> <p>● 適切な相談や対応のために、それぞれの役割を明確にしながら、関係機関との連携を図っていく。</p> <p>● 保護者との連携も図りながら、子どもの成長をつなぐためのネットワーク作りを行う。</p>	<p>C</p>

② 小学校・中学校の方針			
基本方針	「三豊市の誇り」と「生きる力」を身につける教育の推進		
項目	① 信頼される学校		
具体的な取組内容及び実施した事業内容	◎○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価	
<p><b>(1) 信頼される教師の育成</b></p> <p>① 「進んで子どもとふれあう」ことの徹底を図るために、個に応じた言葉かけをしたり、休み時間等に児童生徒と一緒に遊んだり、積極的に話を聞いたりして、児童生徒理解に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 挨拶運動、放課後のスポーツ指導や個別指導、積極的な会話等を通して児童生徒理解を深めた。</li> <li>・ 生徒指導の情報交換を定期的実施した。</li> <li>・ 教育相談活動を積極的に推進した。</li> <li>・ 中学校では休み時間や授業中、各学年団で巡視を行った。</li> </ul> <p>② 「分かる授業を行う」ことの徹底を図るために、学習の軌跡やまとめがわかる板書づくりやノート指導を徹底する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分かる授業づくりのために、学習の流れが分かる板書やノート指導の研究を校内研修に位置づけ、研究を進めた。</li> <li>・ 校内研修における授業討議で、板書計画について話し合ったり、よいノートを見せ合ったりして、共通理解・共通実践を図った。</li> </ul> <p>③ 学校評価等で明らかになった学校課題を解決するために、学校として全教職員で計画的・組織的に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年度末の課題から、目標達成のための具体的計画を立てた。</li> <li>・ 全教職員で自己評価書の改善を図り、外部アンケート(児童・保護者)や職員の意識調査を元に、年複数回の学校評価を実施し、「PDCAサイクル」を機能させた。</li> </ul>	<p>◎ 全職員が子どもの様子がよく分かってきており、子どもを多面的に見て指導し、信頼を深められた。</p> <p>○ 補充指導についても時間を確保し、個に応じた指導ができた。</p> <p>◎ 児童生徒の動向を確認したり、変容を把握でき問題行動等の早期発見・早期対応に成果が見られた。</p> <p>● さらに児童生徒理解を深め、児童生徒との信頼関係をより強固なものとするために、今後事業を継続する。</p> <p>● 教職員一人ひとりが、児童生徒の内面の声を聴き取り、それに寄り添った言葉かけや対応ができる力を育成する必要がある。</p> <p>◎ 研究授業を通して、板書やノート指導について具体的に話し合い、各自の実践に生かすことができた。</p> <p>○ 予習や復習に生かせるノートになりつつある。</p> <p>● 教科によってパターン化する等、発達段階によって今後も継続した指導を行いたい。</p> <p>● 緻密な教材研究や指導過程の工夫によって、児童生徒を引きつける授業ができている教員もかなりいる。しかし、十分には授業改善が進んでいない教員への指導が必要である。</p> <p>◎ 学校課題が明確になり、学級担任やそれぞれの分掌が意識して取り組むことで、改善された事項が増えた。</p> <p>○ データ化により実態を客観的に分析でき、進捗状況や課題を共通理解できたことにより、改善策が工夫できた。</p> <p>● 評価項目のさらなる重点化や優先順位等を考慮し、個々の教職員の経営参画意識を高め、より効果的な学校評価になるよう改善を図る。</p>	B	

項目	① 信頼される学校	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	◎○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p><b>(2)開かれた学校づくり</b></p> <p>① 具体的かつ明確な目標を設定することで、客観性・透明性を高めた自己評価に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校の経営目標や取り組みの様子を、学年便り・学校便り・学習公開で具体的に示した。</li> <li>・ 明確な目標に対する評価を「いつ」「だれが」「何で」「どのように」するか具体的に決め行った。</li> <li>・ 学校課題と関連させた具体的な努力目標の評価となる項目・内容を定め、評価指標を作成した。</li> </ul> <p>② 保護者や地域住民等の学校運営への理解と協力を進めるために、学校関係者評価や学校評議員等の意見の活用を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者へアンケートを実施し、結果・改善策を公表した。</li> <li>・ 学校評議員会並びに学校関係者評価委員会等を開催し、その結果や改善策を公表した。</li> </ul>	<p>◎ 全教職員が評価内容や指標の作成に関わったので、共通理解・共通実践につなぐことができ、意欲化が図られた。</p> <p>○ 計画的に継続して実施することにより、学校の取り組みについて保護者・学校評議員・地域の学校関係者の理解を高めることができた。</p> <p>● 一部にある教職員の評価・改善への温度差に対応するために、組織で改善の方向性をより具体化し、具体的な数値目標の設定や役割分担の明確化を図る。</p> <p>○ 地域住民に、具体的に学校や子どもたちの様子を発信できるよい機会になった。</p> <p>○ 学校関係者より意見・助言を得て、学校がすること、家庭・地域にお願いすることを明確にして、働きかけることができた。</p> <p>● 今後も自由参観やPTA授業参観などで学校に足を運んでいただき、積極的にアンケートなどで意見をいただく努力を続ける必要がある。</p> <p>● 学校評議員が授業参観等により多く出席していただくため、他の行事と組み合わせるなどの工夫が必要である。</p>	B
<p><b>(3)安全・安心な学校づくり</b></p> <p>① 事故等を防止するために、「学校安全計画」を作成するとともに、施設設備の安全点検の徹底と日常指導や避難訓練・防災教育を計画的・継続的に行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校安全計画を作成し、施設設備の安全点検の徹底・避難訓練等、安全な行動の日常化を目指す安全教育の充実を図った。</li> <li>・ 全校集会や集団下校時に機会をとらえ、安全について適宜指導した。</li> </ul>	<p>◎ 防災訓練の実施や日常の安全点検により、児童生徒・職員の安全意識が以前に比べて高まった。</p> <p>○ 外部組織(警察や消防等)との連携の確認ができ、職員の危機管理意識の高揚が図られた。</p> <p>● タイムリーな指導による子どもの安全意識の持続化が必要である。</p> <p>● 全教職員が非常時に的確な対応ができるようにする。</p>	B

項目	① 信頼される学校	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	◎○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p>② 危機管理マニュアル、情報管理簿、安全マップ、校内安全体制の整備など、事件・事故災害に対する安全管理体制づくりを進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 危機管理マニュアルや安全マップを見直し、教育計画書に掲載し日常的に確認できるようにした。</li> <li>・ 情報管理簿を全小中学校で作成し、情報管理の徹底を図った。</li> </ul> <p>③ スクールガードリーダー、地域安全ボランティア、三豊市安全パトロール隊など、関係機関との連携を図り、迅速かつ適切な情報提供や対応を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の見守り隊、交通指導員、スクールガードリーダー等の巡回や指導によって校外外の危険箇所の点検、見直しを進めた。</li> <li>・ 育成センターを通じて、保護者等に不審者情報を提供した。</li> </ul>	<p>○ 危機管理マニュアルや校内安全体制の見直しを進めたことにより意識が向上し、日常指導につながることができた。</p> <p>◎ 情報管理簿を作成することにより、データ管理の徹底ができた。</p> <p>● 安全マップの随時更新、避難訓練の定期的実施等、今後も継続して、危機管理意識の高揚を図る。</p> <p>● 関係機関との連携や校外補導の強化が必要である。</p> <p>◎ 地域の見守り隊等関係機関との連携により、情報を共有し、安全・安心な学校づくりを進めた。</p> <p>○ 家庭や学校だけでなく、みんなで地域の子どもを育てるという意識づけができた。</p> <p>● 地域の見守り隊活動は、完全なボランティアであるが、マンネリになったり縮小していかないか不安がある。定期的な意識付け、感謝の意を表明する場の継続が必要である。</p>	
<p>(4) 特色ある学校</p> <p>① 地域の施設や人材を積極的に活用したりするなど、創意工夫ある教育課程を編成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域で特技のある方の協力を得て、クラブ活動や生活科、ものづくり体験学習(含:栽培活動)等の授業を実施した。</li> <li>・ 読み聞かせ、活動に地域の人材を活用している。</li> </ul>	<p>◎ 学校だけでは困難な行事を、地域の人材の協力をいただくことにより実施することができた。</p> <p>○ 育てる力を明確にして、各校で計画的に教育課程を編成することができた。</p> <p>◎ 活動を通して地域の人たちとの交流が深まった。</p> <p>● 教科との関連の中で、地域の施設や人材の積極的な活用をさらに工夫する。</p> <p>● 総合的な学習の時間の減少に伴い、見直しが必要である。</p>	B

項目	② 確かな学力の向上	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	◎○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p><b>(1) 基礎・基本を定着させる教科学習</b></p> <p>① 子どもたちが常に学習課題を意識でき、学習の軌跡やまとめがわかる板書を工夫し、わかる授業を実践するとともに、学習内容定着のためのノート指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>分かる授業づくりのために、学習の流れが分かる板書やノート指導の研究を校内研修に位置づけ、研究を進めた。</li> <li>学習課題とゴールの明確化を図った。</li> <li>校内研修における授業討議で、板書計画について話し合ったり、よいノートを見せ合ったりして、共通理解・共通実践を図った。</li> </ul> <p>② 繰り返し指導や補充学習により、一人一人に基礎学力を定着させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>三豊市版漢字・計算テストを実施し、6か年を見通して全校生の基礎学力の定着を図った。</li> <li>放課後等に各校で工夫して時間を確保し、補充学習を行った。</li> </ul> <p>③ 教材・教具の具体操作や動作化など実感を伴う授業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容に応じて教材・教具の工夫や、具体操作や動作化などを意図的に取り入れた授業を実践した。</li> <li>電子黒板や大型TV等視聴覚機器を授業に活用した。</li> </ul>	<p>◎ 学習課題をはっきりとさせたことで、児童生徒の理解が伸び、授業者である教師自身が授業のねらいがぶれなかった。</p> <p>○ 研究授業を通して、板書やノート指導について具体的に話し合い、各自の実践に生かすことができた。</p> <p>○ 予習や復習に生かせるノートになりつつある。</p> <p>● 教科によってパターン化する等、発達段階によって今後も継続した指導を行いたい。</p> <p>● 家庭学習との関連をさらに図りたい。</p> <p>● 十分に授業改善が進んでいない教員への指導が必要である。</p> <p>◎ 基礎学力が十分に定着できていない児童への個別指導が学力の向上につながった。</p> <p>○ 市版テストを合格するまで繰り返し練習させたことや補充学習により、基礎学力の向上が見られた。</p> <p>● 補充指導の時間を確保することで、学期・学年の始めのスタートを揃えさせたい。</p> <p>● 指導内容や指導方法について、小中で一層連携することが必要である。</p> <p>○ 具体的な操作活動を行うことで、式や言葉の意味、心情がより深く理解できた。</p> <p>◎ 具体的操作や視聴覚機器を活用することで、子どもの授業に対する意欲化が図れた。</p> <p>● 具体物等を使ったり、図に表したりして自分なりの考えをもたせることのできる指導ができるよう、さらに職員研修に取り組む。</p>	B
<p><b>(2) 学ぶ基礎を培う学習習慣づくり</b></p> <p>① 学習課題を明確にし、一人一人がめあてをもって、学べる授業をすすめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本時のめあてを提示したり、学習問題を子どもとともに作ったりしながら、板書の中に学習課題を明確にして授業を行った。</li> <li>「分かる授業」づくりに向けて、学習課題とゴールを明確にした学習指導を継続した。</li> </ul>	<p>○ 課題が明確になり問題(課題)解決の見通しをもち、一人学びができるようになってきた。</p> <p>○ グループ学習やペアでの授業で意欲化が図られた。</p> <p>● 子どもとの話し合いの中から学習問題を設定する経験を積ませ、自分で課題をつくることのできる子どもを増やしていく。</p> <p>● 既習事項の活用や学習の足あとの掲示等により、学び方の定着を図る。</p>	B

項目	② 確かな学力の向上	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	◎○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p>② よりよい学び方が定着するように、「話し方」「聞き方」を中心に、学年や校種間のつながりを考えた、中学校区で共通した学習規律づくりを進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小中学校で話し合った学習規律、例えば発表話型や聞き方を掲示し、全ての子どもが意識できるようにした。</li> <li>・ 小中連携を図るよい機会になった。</li> </ul> <p>③ 家庭との連携をとりながら、家庭学習のしおり等を活用して、家庭学習の習慣化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家庭学習の必要性を保護者に伝え、「家庭学習の手引き」を作成し、各家庭に配布して活用した。</li> <li>・ 宿題をしてこない子どもは、休み時間にさせる等、徹底してする習慣づけをした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分なりの考えや見通しをもち、充実した話し合いができるようになった。</li> <li>○ 相手意識を持った話し方、聞き方が徐々にできつつある。</li> <li>○ 教師自身が、学年のつながりを考えた学び方指導の必要性を実感するようになった。</li> </ul> <p>● 今後も小中連携を図りながら、話し合う場を設定し、お互いの意見を聞き合うことで高めたり、深めたりできるように指導・支援を継続させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 目標達成に向けてがんばる児童が増え、自主勉強による家庭学習の習慣化が定着しつつある。</li> <li>○ 家庭学習の必要性を保護者も理解していただき、協力してくれる家庭が増えた。</li> </ul> <p>● 習慣化できていない一部の児童生徒及び保護者に対して、さらなる支援の工夫が必要である。</p>	
-----		
<p>(3) 言語活動の充実</p> <p>① 個々が自分なりの考えがもてるように支援したり、時間を確保したりした上で、教科としての学習のねらいを明確にした話し合い活動を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習のねらいに沿った話し合いができるよう、ペアやグループでの話し合い活動を位置づけた。</li> <li>・ 自分の考えが持てるように、授業の中で一人学びの時間や書く時間を重視した。</li> </ul> <p>② 読書の時間を十分に確保し、読書意欲を高め、読書活動の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 読書目標の設定や賞賛、読書週間の取り組みにより、児童生徒の読書意欲を高めた。</li> <li>・ 読み聞かせを計画的に実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 話し合い活動の場を設定することで、個人差はあるが自分なりの考えをもち自信を持って発表したり、交流したりする姿が増えた。</li> <li>○ 教師が共通した取り組みや先進的な取り組みを行うことで、授業力の向上が見られた。</li> </ul> <p>● 学びを深める場での助言、話し合いのねらいの明確化等、教師の支援をさらに工夫する。</p> <p>● 学級会や代表委員会、全校朝会などで、生活上の問題について児童生徒が主体的に話し合い、自ら解決していく力を培いたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 目標達成に向け、意欲的に読書活動に取り組む児童生徒が増え、読書目標達成者も増えた。</li> <li>○ 読み聞かせを子どもたちは楽しみにしており、読書への関心を高めるよい機会になった。</li> <li>○ 活動前の「静」の時間の確保に役立った。</li> </ul> <p>● 「読書習慣」の身につけていない児童もまだいるので、学校での時間確保と読書の楽しさを味わわせる活動にさらに取り組む。</p> <p>● 「23が60運動」やノーテレビデーを活用して、家庭での読書活動がさらに活発になるように働きかける。</p>	B

項目	② 確かな学力の向上	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	◎○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p><b>(4) 個を大切に作る特別支援教育</b></p> <p>① 一人一人の能力や可能性を最大限に伸ばすために、障害の種類や程度に応じた教育課程編成を行うとともに、学習環境の整備や指導方法の改善を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個別指導計画を作成し、それに沿って指導をした。</li> <li>・ スクールカウンセラーと連携して指導方法を構築した。</li> </ul> <p>② 障害のある児童生徒への理解と認識を深めるために、校内研修の充実を図ったり、特別支援コーディネーターを中心に学校全体の支援体制づくりを進めたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支援が必要と思われる児童をチェック表によって確認し、保護者の相談を受けたり医療機関と連携したりした。</li> <li>・ 特別支援教育コーディネーターを核に、特別支援教育の方向性を全教職員で共通理解し、支援体制づくりを進めた。</li> </ul> <p>③ 見通しをもった就学指導や支援ができるように、継続して保護者に対する相談・支援を行ったり、就学指導委員会等の関係機関との連携を強化したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者に対し、児童生徒の学校での様子を連絡帳に記入したり家庭訪問をしたりして、連携に努めた。</li> <li>・ 保護者との懇談を通じて、就学指導の必要性や効果的な支援計画について話し合った。</li> </ul>	<p>◎ 全職員が特別な支援の必要な子どもの課題を共通理解し、全職員で課題解決の取り組みができた。</p> <p>○ 特別な支援を必要とする児童も、他の児童生徒との良好な関わりをもちながら、安定した学習や生活ができるようになった。</p> <p>● 必要な情報は、共通理解しやすい形でまとめ、中学校へ引き継いでいけるようにする。</p> <p>● 個のよさを伸ばすことや褒めることによって、苦手なことにも挑戦する意欲も引き出した。</p> <p>◎ 実態について職員間で共通理解ができ、担任、管理職、支援員、養護(助)教諭、スクールカウンセラー等が連携し指導にあたることができた。</p> <p>○ 支援計画をもとに、特徴や対処法等を共通理解でき、一貫性のある指導ができた。</p> <p>● 個別の指導計画や支援計画を子どもの実態と変容に応じて修正・付加する。</p> <p>● 特別支援学級以外の児童にも様々な支援が必要な児童がいるので、個に応じた指導や支援のあり方をさらに研究していく。</p> <p>◎ 保護者との信頼関係を築きながら願いに沿った指導を行うことができた。</p> <p>○ 関係機関との継続的な連携により、今後を見通した指導・支援ができた。</p> <p>● 連携の難しい保護者に対し、家庭訪問をする等、保護者に寄り添った支援も必要である。</p> <p>● 保幼小中の縦の連携をさらに深めていく。</p>	<p style="text-align: center;">B</p>

項目	③ 豊かな心の育成	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	◎○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p><b>(1) 自己指導力を培う生徒指導</b></p> <p>① 児童・生徒とのふれあいを重視することで、いじめ・不登校・児童虐待等の早期発見に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ なかよしアンケートの定期的な実施や児童生徒への意図的な声かけを通して、いじめ、不登校の早期発見に努めた。</li> <li>・ 気になる児童生徒について、定期的に情報交換を行った。</li> <li>・ 「いじめゼロ運動」を全校で取り組んだ。</li> </ul> <p>② 問題行動や不登校に対して、スクールカウンセラーとの連携を図り、個に応じたきめ細かな支援を迅速かつ適切に行うなど、根絶に向けた全教職員による指導体制を整える。(校内支援チームの設置)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 気になる児童生徒についてはスクールカウンセラーに相談しながら、担任を核として全職員で対応した。</li> <li>・ 心配な児童生徒については、個別訪問し、保護者と連携を深め、カウンセリングを受ける等の支援を行った。</li> </ul> <p>③ 家族との会話や読書の機会を増やすために、家庭と連携し「ノーテレビデー」や「23が60運動」の啓発と充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家庭と連携し、「ノーテレビデー」や「23が60運動」の啓発と充実を図った。</li> </ul>	<p>○ 国や県の法律やリーフレットをもとに職員間で研修し、共通実践につないだ。</p> <p>◎ アンケートを実施することで、困っている児童生徒を把握し、個別に対応することができた。</p> <p>● アンケート等だけではなく、教師が進んで児童生徒と触れ合う中で、諸問題の早期発見に努めるとともに、肯定的な人間関係ができる学級づくりを続ける。</p> <p>◎ 問題行動や不登校が心配されると感知した場合には、チームで動いて、迅速な対応を図った。</p> <p>○ スクールカウンセラーからの専門的な指導・助言が、個に応じたきめ細かな対応に役立った。</p> <p>● 指導方針を具体化・明確化し、共通理解の上、全職員で実践していく必要がある。</p> <p>◎ 「ノーテレビデー」や「23が60運動」は児童生徒に定着してきており、毎月の達成率も高くなってきた。</p> <p>○ 学校の情報が、児童生徒からよく伝わるようになった。</p> <p>● マンネリ化傾向もあるので、さらなる啓発や個に応じた指導・助言が必要である。</p> <p>● 理解と協力が得られにくい一部の保護者や、読書があまり好きではない児童生徒に対して、個別に対応が必要である。</p>	B
<p><b>(2) 人権尊重社会の実現に向けた人権教育</b></p> <p>① 人権についての正しい理解や認識、人権を尊重する意欲・態度を育成するために、人権教育指導計画を教育計画に位置づけ、授業実践を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前年度の実践をもとに学年団で話し合いを持ち、三豊市人権教育教材集「人権(じんけん)」を活用して年間計画を立て実践した。</li> </ul>	<p>◎ 計画的、継続的に授業実践を行っているので児童の人権意識は高まってきている。</p> <p>● 教師自身の人権感覚を磨き、差別事象を見逃さず、常にタイムリーな指導を心がけていく。</p>	B

項目	③ 豊かな心の育成	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	◎○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p>② 三豊市人権教育教材集を活用した授業実践や指導方法の工夫を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業実践について意見交換を行った。</li> <li>人権・同和教育年間指導計画に基づき、三豊市人権教育教材集を活用した授業を行い、実践報告をした。</li> </ul> <p>③ 保・幼・小・中学校間での情報交換や共通認識を確立するために、学力・進路支援担当及び人権・同和教育主任による研修会や関係団体との交流研修会を積極的に行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>団体と連携した授業や、交流研修を実施した。</li> <li>豊中町の「ふわふわことば」と「花咲山活動」の実践など、保幼小中で統一テーマでの取組が始まった。</li> </ul>	<p>◎ 毎年の授業実践により教材研究が深まり、多用な指導方法を考えるなど実践の積み上げができた。</p> <p>● より効果的な授業の進め方や指導法などについて、中学校区でさらに検討し、実践していきたい。</p> <p>● 生徒の実態に応じて段階的に、同和問題学習の深化にも取り組んでいきたい。</p> <p>○ 保幼小中の発達段階や実態に合わせた指導内容が具体的に分かり参考になった。</p> <p>○ コミュニケーション能力の育成を教師が意識して指導することで、自分の思いを語れる児童生徒が増えた。</p> <p>● 保幼小中間での情報交換にさらに努め、各学校の公開授業には積極的に参加し、連携を強化する。</p> <p>● 市人権同和教育研究協議会の設立による、市としての統一した取組を推進する。</p>	
<p><b>(3) 豊かな心を培う道徳教育</b></p> <p>① 毎時間の道徳の授業を要にして、道徳的な心情や実践態度等を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新学習指導要領全面実施に向けた年間計画の見直しを行い、その計画に従って実践した。</li> </ul> <p>② 副読本や「こころのノート」を十分に活用し、さらに、効果的な指導法について工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「こころのノート」を活用した指導の実施と保護者啓発を行った。</li> </ul> <p>③ 地域の人材の活用や体験的な活動など、多様な取組を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ふるさと学習を推進し、各地域の実態に合わせた人材を活用した。</li> </ul> <p>④ 道徳の授業公開や「道徳の日」を設定するなど、学校と家庭との連携を大切にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>道徳の授業公開や学級通信などを通して、保護者啓発にも努めた。</li> <li>「道徳の日」を各校で設定し、継続的に指導した。</li> </ul>	<p>○ 児童生徒の実態に応じた道徳的価値を計画的に実践関連させることで、道徳的实践力や自尊感情の高まりが見られた。</p> <p>● 子どもの心に響くよう、保護者や地域の人を巻きこんだ学習活動をさらに工夫する。</p> <p>○ 副読本と「こころのノート」を関連させて学習することにより、生活の中で実践しようとする態度が見られた。</p> <p>● 学校の全教育活動や教科学習と、より関連した年間計画に適宜改善する。</p> <p>○ 子どもサイドに立った体験を通して、ねらいに合った気づきや意識の変容が認められた。</p> <p>● 活動の時間の確保が難しいので、より道徳的価値の高い体験活動を精選する。</p> <p>○ 保護者への授業公開や「道徳の日」の実践により、学校と家庭との連携が密になってきた。</p> <p>● 「道徳の日」をもっと意識化し、家庭との双方向の情報交換が密になるように工夫する。</p>	B

項目	③ 豊かな心の育成	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	◎○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p>⑤ 地域の自然や文化・歴史などを学ぶことを通して「郷土を愛する心」を育てるふるさと教育を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な学習の時間や社会科の学習等の年間計画の中に、地域教材を位置づけ実践した。</li> </ul>	<p>◎ 地域の人・もの・ことに触れることで、地域に支えられて生きていることに気づく子どもが増えた。</p> <p>● 総合的な学習の時間の短縮に伴い、年間計画の見直しが必要である。</p>	
<p><b>(4) 自主的・実践的な態度を培う特別活動</b></p> <p>① 児童会や生徒会の主体的な活動を推進するための指導を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童会や生徒会が中心になって、挨拶運動やアルミ缶回収、集会等を行った。</li> </ul>	<p>◎ 取り組みの成果を実感し、また、賞賛されることで、一人一人の自尊感情も高まった。</p> <p>○ 異学年や地域の人との交流により、人間関係が広がった。</p> <p>● 意識の個人差が大きく、全体の意識の向上をさらに図っていく必要がある。</p> <p>● 「みとよ・ヤング・エコ・サミット」を核に、環境問題を意識した活動を市内全校で取り組みたい。</p>	B
<p><b>(5) 将来の自分を考える進路指導・キャリア教育</b></p> <p>① 職場訪問や職場体験学習などの、体験的な活動を取り入れたキャリア教育の推進に努め、自己有用感を感じられるように事前事後指導等を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校では職場見学を、中学校では職場体験を行った。</li> <li>中学校では、2年生の職場体験に向けて、事前指導及び事後指導を行った。</li> </ul> <p>② 児童生徒が自分の生き方を省察し、将来の自分の進路を自ら切り拓くことができるように、学校教育全体を通して支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の目標や将来の夢について、考えたり話し合ったりする機会を意図的に設定した。</li> </ul>	<p>◎ 見学や体験を通して、正しい職業観や生きがいとしての仕事について考える有意義な機会となった。</p> <p>● 学年の発達段階に合わせた、キャリア教育の計画が十分ではない小学校がある。</p> <p>○ 自分の夢の紹介をし合ったり、よさを認め合う活動を通して、自尊感情の高い児童が育ってきた。</p> <p>○ 中学校では学力保障と進路保障の観点を備えた取り組みが計画的に実践され、生徒が自分の生き方を見つめる機会が増えた。</p> <p>● 児童の発達段階や個に応じた具体的な手だてを工夫し、自ら切り拓く力をさらに育てる。</p>	C

項目	③ 豊かな心の育成	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	◎○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p>③ 児童生徒が将来の夢に向かって着実な歩みを続けられるように、家庭で将来の夢などについて語り合う機会をもつよう協力を求める。</p> <p>・ 子どものよさを認め伸ばすこと、積極的に手伝いをするなどして将来の夢について話し合うよう啓発した。</p>	<p>○ 保護者の中にも、児童に夢をもたせる必要性を感じる人が増えてきた。</p> <p>◎ 中学校で進路希望調査を実施し、親子で進路について話し合う機会を作ったり、進路についての説明会を実施した。</p> <p>● 親子で話し合う場として、授業参観などの機会を増やしていきたい。</p>	

項目	④ 健やかな体の育成	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	◎○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p><b>(1)豊かなスポーツライフの基礎を形成する学校体育</b></p> <p>① 運動の楽しさや喜びを味わいながら自らの課題に気づかせたり、仲間との交流を通して解決したりさせながら、生涯にわたって運動に親しむ資質能力の基礎を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全校縦割りによる活動、個人目標や学年目標を設定した個人カードの活用などで、体力向上の基礎づくりを図った。</li> <li>・ 水泳・陸上・サッカーなどの特別練習を実施し、進んで体を鍛えようとする態度を伸ばそうとした。</li> </ul> <p>② 週時程や活動内容を工夫しながら、発達段階に応じた基礎的な体力づくりを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校では、毎週、曜日や時間帯を決めて、マラソン、縄跳び等の運動を行った。</li> <li>・ 縦割りのグループで、季節に応じた運動を行った。</li> </ul> <p>③ 児童生徒の能力等に応じて技能や記録の向上を目指したり、好ましい人間関係を育てたりするために、個性と自主性を尊重した運動部活動を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 放課後の陸上や水泳等の特別練習に参加し、自己記録更新に向けて取り組んだ。</li> <li>・ 部活動を通して、上級生が下級生に技術を伝達するなど、望ましい人間関係づくりに努めた。</li> </ul>	<p>○ カードを使用することで自分の体力を知り、めあてをもって意欲的に取り組むことができた。</p> <p>◎ 体育祭で色別競技を行うなど、協力し練習や応援するなど、楽しく取り組むことができた。</p> <p>○ 特別練習においては、多くの児童が記録の伸びを楽しみ、丈夫な体づくりに取り組むことができた。</p> <p>● 運動に親しむ活動は、継続して取り組ませる。</p> <p>● 運動が苦手な児童生徒への指導や支援について、さらに充実させる。</p> <p>○ 低学年が高学年の技能をまねながら、より高い目標に向かう姿勢が育ってきた。</p> <p>◎ 週時程に位置づけることにより、計画的な体力づくりの実践ができるようになった。</p> <p>○ 縦割り班対抗で行っているので、競争意識や協力、人間関係づくりが図られた。</p> <p>● 年間を通して、より意欲をもって体力づくりに取り組ませ、気力・持久力を鍛えるための手だてを工夫する。</p> <p>● 個人差への対応を考慮する。運動が苦手な児童生徒に対して、目標を持たせる指導を実践する。</p> <p>◎ 各種大会を目標に、一人一人が目標をもって取り組むことができた。</p> <p>○ 自分の体力の現状を知り、自らの能力を高めようとする態度が育ってきた。</p> <p>○ 児童生徒間で、自分の記録や技、チームの作戦などの意見交換が盛んになった。</p> <p>◎ 切磋琢磨しながら練習に取り組み、継続する態度や運動技能、精神力、競争心、向上心が身についた。</p> <p>● 個々の努力の成果について、評価の方法を工夫する。</p> <p>● 限られた指導者に負担がかからないよう、協力体制を整える。</p> <p>● リーダー育成との関連付け、高め合う人間関係の育成を意識した指導を推進する。</p>	<p>B</p>

項目	④ 健やかな体の育成	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	◎○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p><b>(2) 規則正しい生活習慣の確立</b></p> <p>① 家庭との連携を図りながら、「早寝早起き朝ごはん」運動を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な、早寝・早起き・朝ごはん・排便等を調べる生活リズムチェックを実施し、児童に自己評価させた。</li> <li>学校だよりや保健だよりなどで、保護者啓発を図るとともに、家庭連携の中で基本的な生活習慣の定着を図った。</li> </ul> <p>② 生活習慣病・喫煙・飲酒・薬物乱用・性・エイズなど、健康に関する現代的課題に対応した指導の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小児生活習慣病予防検診(小学5年生対象)を実施した。</li> <li>保健指導計画の見直しを図りながら、性教育、エイズ教育、薬物乱用防止教室を実施した。</li> </ul> <p>③ 学校保健委員会や外部指導者による指導により、児童生徒の健康や安全に関する諸問題について、家庭や地域社会との連携の強化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業参観等に合わせて、児童の生活習慣や健康、安全面についての問題を提起し、話し合った。</li> <li>外部講師を招き、薬物乱用防止教室を開催した。</li> </ul>	<p>○ 児童、保護者への意識付けにつながり、規則正しい生活リズムが身に付いた。</p> <p>◎ 保護者の意識が高まり、朝食に気を配る家庭が増えた。</p> <p>○ チェック項目の反省から、問題点が具体化され、改善できるようになった。</p> <p>● PTA総会や懇談会等の機会をとらえ、保護者啓発をより一層進めるとともに、今後も個に応じた配慮をしながら推進していく。</p> <p>◎ 小児生活習慣病予防検診を実施したことで、5年生の改善すべき実態を知ることができた。</p> <p>○ 養護教諭と担任が協力し合って、薬物乱用教室や性教育を計画的に実施できた。</p> <p>● 指導計画を系統立てて作成し、計画的に指導する。</p> <p>● 保護者啓発に、より一層努める。</p> <p>● 薬物乱用防止教室と、学級活動や保健学習を関連させた指導が必要である。</p> <p>○ 専門家の指導のもと、健康な生活を送る基礎づくりの大切さと方法を保護者間で共有した。</p> <p>○ 身近な事柄について専門的な話があるので、保護者に好評であった。</p> <p>● 多くの保護者が参加するように、実施の時期や方法、啓発方法を工夫する。</p> <p>● 毎回のテーマを工夫し、興味や関心を持ち、意欲的に取り組めるようにする。</p>	B
<p><b>(3) 望ましい食習慣を形成する学校給食</b></p> <p>① 給食の時間を中心に教科等と関連付けるなど、教育活動全体を通じた「全体計画」及び「食育の年間指導計画」を作成し実践を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>栄養教諭らの指導のもと、各教科・領域と学年段階を考慮し、「全体計画」及び「食育の年間指導計画」を見直して、各学年ごとに教育計画を作成した。そして、全教職員の共通理解を図った。</li> </ul>	<p>○ 計画的に食育に関する指導ができた。</p> <p>○ 食育を意識して、教科学習や学級指導を行うことができた。</p> <p>◎ 家庭科、総合的な学習の時間等を使って、食の大切さを考えることができた。</p> <p>● 年間計画を作成し、学級担任だけでなく、他の職員も直接参加して指導できる体制をつくる。</p> <p>● 保護者啓発による家庭での継続的な実践に努める。</p>	B

項目	④ 健やかな体の育成	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	◎○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p>② 食物の生産や調理等の体験活動や学校栄養職員による専門性を生かした指導など、指導方法の工夫を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 栄養教諭、学校栄養職員らの専門性を生かし、連携・協力による授業を計画的に実施した。</li> <li>・ 家庭科の授業で栄養面を重視した献立を考え、調理した。</li> </ul> <p>③ 肥満・食物アレルギー・偏食など、食に関する個々の課題に応じた指導の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 養護教諭を中心に、保護者や学級担任と協力して個々の課題に応じた個別指導を行った。</li> <li>・ 食物アレルギーについては、保護者と紙面で情報交換をし、本人への声かけを含め、安全な給食指導を行った。</li> </ul> <p>④ 郷土料理・地元産物の積極的活用や徹底した衛生管理など、魅力ある食事の工夫と安全性の確保を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体験活動や環境学習、教科、給食等に関連付け、地産地消のよさを考える学習を実施した。</li> <li>・ ノロウイルス、インフルエンザ等への対応として、手洗いやうがいを徹底させたり、嘔吐物の処理を徹底したりした。</li> </ul> <p>⑤ 食と健康の問題等について協議する学校保健委員会の開催や給食だよりの発行など、家庭や地域社会との連携の強化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生活習慣調査の朝食の集計結果等を紹介し、家庭への具体的な啓発資料として『たより』を発行した。</li> <li>・ 多くの小学校で親子給食を実施し、家庭との連携を進めた。</li> <li>・ 保護者や学校関係者評価委員に対し、給食についての意見や感想を求め、連携を図った。</li> </ul>	<p>○ 栄養教諭らと連携した食に関わる授業実践は、望ましい食習慣の形成の上で効果的だった。</p> <p>◎ 「食に関する興味・関心」が高まり、バランスよく食べる生徒が増えた。</p> <p>● 今後も、栄養教諭や学校栄養職員等と連携した計画的な指導を継続させる。</p> <p>◎ 個々の課題が明らかになり、肥満や食物アレルギーなどの児童に対して、的確な対応ができた。</p> <p>○ 個別指導ができ、家庭と学校との連携が図れた。</p> <p>● 今後も保護者と連携を図りながら、生徒への個別指導を積極的に実施し、生活習慣の改善に努める。</p> <p>● 学校全体の取組としていくための方策を考える必要がある。</p> <p>◎ 地場産物への意識は高まっている。(年間30%の利用率を達成できた。)</p> <p>○ 郷土料理や伝統的な料理に対する興味が高まった。</p> <p>○ 食の安全性の確保に対する教職員の意識が高まった。</p> <p>● 郷土料理等の積極的活用について、継続して取り組む。</p> <p>● 安全性の確保の面から、今後も給食前の手洗いやうがいを徹底させる。</p> <p>◎ 保健だよりや給食だよりにより、食と健康、食と文化について保護者啓発を行うことができた。</p> <p>○ 親子給食や親子料理教室を開くことにより、給食への理解を深め、食生活を見直す良い機会になった。</p> <p>● 給食だよりは、保護者の興味関心に応じた記事を工夫する。</p> <p>● 偏食や朝の欠食については、児童や保護者に個別にかかわり、改善をめざす。</p> <p>● 今後も、家庭や地域と連携して「食と健康」に関する指導に取り組む体制の確立を進める。</p>	

項目	⑤ 社会の変化に対応する力	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	◎○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p><b>(1) 高度情報化に対応する情報教育</b></p> <p>① 携帯電話や有害情報の問題に対応する情報モラル教育の充実を図るとともに、家庭との連携を積極的に図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画に基づき、総合的な学習や学級活動の時間において指導を行った。</li> <li>・ 保護者向けに、情報モラルに関するパンフレットを配付した。</li> <li>・ 教職員への情報モラルの指導資料を紹介した。また、情報モラルやマナーに関する授業を校内研修で実施し、教職員の意識の高揚を図った。</li> </ul> <p>② 各教科等の目標を達成するために、三豊市学校ネットワークを中心としたコンピュータ機器等の効果的な活用を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教材・教具等のデータを共有化した。</li> <li>・ 電子黒板等のICT機器の活用について校内研修をもち、普段の授業で活用できるようにした。</li> <li>・ 各教科の調べ学習で、インターネットを利用した。</li> </ul>	<p>○ 保護者や教職員の意識が高まった。また、教科との関連等についても明確になった。</p> <p>◎ 保護者がネット利用の負の部分に気づき、対応の仕方や情報モラルを守ることの大切さを学んだ。</p> <p>● 情報管理を含め、教職員に対する情報モラルについての研修の充実を図る。</p> <p>● PTA総会等で、携帯電話やメールの危険性や安全対策について啓発を行う。</p> <p>● 全体での研修の場に参加できない家庭への啓発が必要である。</p> <p>◎ ICT機器の活用が進み、生徒が授業に意欲的に臨む姿が増えた。また、職員の技能も向上した。</p> <p>○ デジカメを使って大きく提示するなど、活用が日常化してきた。</p> <p>○ インターネットを活用して、能率的に調べ学習ができるようになった。</p> <p>● ICT機器の操作法や効果的な活用法について、教師の知識や技能をさらに高める必要がある。</p>	C
<p><b>(2) 国際化に対応する国際理解教育・外国語教育</b></p> <p>① 郷土や我が国の歴史、文化・伝統及び異文化に対する理解を深めるために、地域の実態を踏まえながら、多様な学習を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総合的な学習の時間や生活科（小学校）で地域学習をしたり、国際理解教育で異文化を学んだりした。</li> <li>・ 総合的な学習の時間等で、郷土の歴史、文化・伝統及び異文化に対する理解を深めるために、ふるさと学習を推進した。</li> </ul> <p>② 地域在住の外国人や豊富な経験を有する地域人材、国際交流員等を活用した教育活動を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国際交流協会やJETと連携し、ALTを各学校へ派遣した。</li> <li>・ ワウパカ市の中学生との交流やALTによる指導等、国際交流を積極的に行った。</li> </ul>	<p>○ 今まで気づけなかった地域のよさや郷土愛を育てることができた。</p> <p>○ 異文化を認め、慣れようとする態度が見られた。</p> <p>◎ ふるさと教育を推進し、外国の文化と比較することで郷土を愛する心を育てることができた。</p> <p>● 学習教材の掘り起こしと、基本的学習内容の設定、時間数の検討を行う。</p> <p>● 実施時間の調整、教科との関連を図りながら、総合的な学習の時間の中に郷土の良さが分かる学習活動を今後も組んでいく。</p> <p>◎ ネイティブな外国語に触れる機会が多くなった。</p> <p>○ 各国の文化や生活の様子を話を生で聞け、それぞれの良さや違いを知った。</p> <p>● ALTの日本語が不十分なため、打合せ時間が今以上に必要である。</p> <p>● 年間指導計画の改善を進めるとともに、人材を確保し、交流活動をより充実させる。</p>	B

項目	⑤ 社会の変化に対応する力	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	◎○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p>③ 英語のコミュニケーションに興味関心を持たせ、意欲を高める小学校英語活動を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業の中にゲーム等の意図的活動を多く取り入れるようALTや英語活動指導員に依頼し、授業の中で、挨拶、数の数え方、自己紹介等を英語で行ったり、受け答えを英語で行ったりすることを通して、コミュニケーションを大切にしたい実践を行った。</li> </ul> <p>④ 「聞くこと」「話すこと」の実践的コミュニケーション能力を育てるために、英語を用いた授業展開や外国語指導助手の有効活用、語彙・文構造の習熟を図る活動など、授業改善を一層進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ALT等の有効活用とともに、「英語ノート」を効果的に利用し、コミュニケーション能力を身につけられるよう、動作化を多く取り入れて授業実践を図った。</li> <li>ゲームを取り入れた活動や繰り返し練習により、英語に慣れ親しみ、聞く・話す力の習熟を図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教員とALTの連携の中で授業プランを立てることで、様々な授業形態の実践ができ、児童も意欲的に授業に参加した。</li> <li>◎ 進んで相手とコミュニケーションしようとする児童が増え、英語で表現することにも慣れてきた。</li> <li>● 小学校全教職員が外国語活動を行えるよう校内研修を充実させ、教員の指導力向上を図る。</li> <li>○ 物の名前や数等の英単語を覚え、基本的な会話ができるようになった。</li> <li>○ 聞く・話すことに対する抵抗が少なくなってきた。</li> <li>○ 繰り返し聞いたり発音したりすることで語彙が増えてきている。</li> <li>● 校内で教材研究や授業研究・授業公開を行うことで、教員の指導力向上や指導法の改善に生かす。</li> <li>● 日常生活の中でのコミュニケーション能力の育成を図る手だてを工夫する。</li> </ul>	
<p><b>(3)自然との共存に対応する環境教育</b></p> <p>① 環境教育については、地域、社会施設、関係機関等と連携を図りながら、学校教育全体を通して進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「みとよ・ヤング・エコ・サミット」の活動を開始した。</li> <li>各学校で、アルミ缶や牛乳パック、ペットボトルのキャップ等を集め、児童生徒の環境問題に対する意識を高揚させるとともに、ボランティアへもつなげる活動を実践した。</li> <li>各教科や道徳、特別活動等との関連付けを図った。</li> <li>計画的にリサイクル活動やクリーン活動を実践する中で、保護者、地域住民、小中学校間等の連携を図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分たちの手で環境を守っているという子どもたちの意識が高揚してきた。</li> <li>○ 各教科や道徳、特別活動と関連させた学習を実践し、児童生徒の学びが深まり、表現力も育った。</li> <li>◎ 「みとよ・ヤング・エコ・サミット」を通して、児童会や生徒会を中心に環境への意識が高まりつつある。</li> <li>◎ 環境について自分たちのできることは何かを考え、保護者や地域住民に発信できた。</li> <li>● 「みとよ・ヤング・エコ・サミット」と各校の日常的な取り組みを連携させ、年間を通して、環境問題に対する児童生徒の意識が持続する手だてを工夫する。</li> <li>● 各領域の中で、環境教育の位置付けを検討する。</li> </ul>	B

項目	⑤ 社会の変化に対応する力	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	◎○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p>② 環境に対する豊かな感受性を育成するために、自然体験やボランティア活動を充実するとともに、活動内容を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各校において、計画的にボランティア活動やクリーン活動を実践した。</li> <li>地域との連携を図りながら、活動の充実を図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 身近な生活と環境問題を結びつけて、考えることができる子どもが増えてきた。</li> <li>○ リサイクル活動への参加が増え、環境に対する意識も向上してきた。</li> <li>◎ 身近な環境を大切にしようとする意識が高揚してきた。</li> <li>○ ボランティア活動を通して、ふるさとの自然や文化に触れ、環境保全に主体的に取り組む態度と環境問題解決の能力が育ってきた。</li> </ul> <p>● さらに自主的な活動としていくための具体的な手立てと、地域とのさらなる連携を図る。</p> <p>● 水や電気、文房具の使い方等、毎日の生活と結びつけ、発達段階に応じた環境教育を実施する。</p>	
(4) 科学技術の進歩に対応する理数教育		
<p>① 「発見する喜び」や「創る楽しさ」が体験できるように、問題解決的学習や体験的活動を積極的に取り入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒一人一人が、観察や実験を体験できるように工夫した。</li> <li>算数科における問題解決学習の推進、理科の実験、観察、制作活動などの充実を図った。</li> <li>授業において、児童の予想をもとに、どのように解決していくかを考えさせる手順を重視した。</li> <li>体験とつないだ学習を重視し、友だちと協力しながら問題解決にあたらせた。</li> </ul> <p>② 「香川高等専門学校詫間キャンパス」や「三豊市少年少女発明クラブ」等の地域関係団体との連携を図ったり、地域の人材や専門家を積極的に活用したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多くの学校で、香川高等専門学校詫間キャンパス、地元企業等の出前授業を実践したり、地域の人材を活用した体験活動を実践したりした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 問題解決に向けて、既習事項を生かし、解決への見通しが持て、解決方法を考える力が育ってきた。</li> <li>◎ 児童の予想と実験や観察の結果の違いについて考えることで、授業に深まりができてきた。</li> <li>○ 児童は、意欲的に実験や観察に取り組んでいる。</li> </ul> <p>● 教材研究を通し、問題解決型の授業をどの単元で取り入れるかを吟味し、効果的な実践をする。</p> <p>● 解決したときの喜びを味わわせるよう、支援と評価を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 科学の楽しさやおもしろさを味わうことにより、探求心が高まった。</li> <li>○ 教員では持たない専門的な知識が得られ、参加した児童生徒の知的好奇心を喚起し、科学技術への興味関心を高めることができた。</li> </ul> <p>● 年間計画の中での位置付けを検討し、より多くの学校が、関係団体との連携を図り、児童生徒が専門家による指導を受け、体験活動ができるよう推進する。</p>	C

③ 学校等施設耐震化の推進			
基本方針	子どもたちが安全な学校施設で、安心して学ぶことができる教育施設等の整備		
項目	①子どもたちが安全な学校施設で、安心して学ぶことができる教育施設等の整備		
具体的な取組内容及び実施した事業内容	◎○得られた成果	●課題と今後の取組み	評価
<p><b>(1)学校等施設耐震化の推進</b></p> <p>耐震性を有しない園舎、校舎、体育館の耐震補強工事等の耐震化を優先的に実施し、子どもたちが安全な学校施設で安心して学ぶことができる教育施設等の整備をする。</p> <p>耐震化整備計画 ○平成24年度 小・中学校校舎、体育館の耐震化工事 完了</p> <p>本年度は、幼稚園園舎5園について昨年度から引き続き耐震補強工事に着手し、年度末までに工事を完了した。これにより市内の幼稚園施設の耐震化は全て完了した。</p> <p>次に、小学校校舎2校の耐震補強工事及びトイレ改修工事、屋内運動場1校の耐震補強工事を年末までに完了した。さらに次年度に向けて小学校3校の屋内運動場耐震補強工事にかかる実施設計を完了した。</p> <p>また国の補正予算を活用して、次年度着工予定の小学校校舎2校、小学校屋内運動場2校の耐震補強工事を前倒しで着手することができた。</p>	<p>◎昨年度に引き続き、計画していた耐震補強工事の実実施設計、耐震補強工事は計画どおり実施し、耐震化を図った。また、国の補正予算に伴い、次年度発注予定の耐震補強工事も前倒しで発注することができた。これにより耐震補強未実施は校舎4校・屋内運動場3校である。</p> <p>このことから平成22年度末における三豊市の学校施設耐震化率は、92%となった。香川県内の小中学校耐震化率は71.8%、全国平均の耐震化率は73.3%であり、香川県内、全国平均を上回っている。(香川県内、全国平均の数値は平成22年4月1日現在の数値)</p>	<p>●三豊市の耐震化未実施施設の工事については、大きな財政負担を伴うことから、国の補助金の活用と本市の新総合計画との整合性を図りながら、引き続き教育環境の整備を進める。</p> <p>なお、耐震化未実施の中学校校舎、小中学校屋内運動場については、適正規模・適正配置の答申を受けて耐震化の手法(補強工事か改築工事か)を決定する。</p>	A

④ 生涯学習の方針			
基本方針	人と地域がふれあい、人と文化を育てるまちづくり		
項目	① 自ら学び、生きがいを創造する生涯学習の推進		
具体的な取組内容及び実施した事業内容	◎○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価	
<p><b>(1) 学習機会の提供(地区公民館活動の充実)</b></p> <p>① 公民館活動は、知的、文化的、総合的な活動を通じて潤いと生きがいのある活動が求められており、そのニーズに応じて文化活動を中心とした生涯学習活動の場として、仲間や生きがいづくり活動、また、地域社会への技術や知識の還元の場として、すべての旧町単位に地区公民館長、公民館主事を配置し、地区公民館を拠点とした生涯学習の充実を図る。また、指導者等の情報の提供及び調査研究の充実に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各地区公民館において、高齢者・子ども・女性を対象とした講座を開催した。また、地区公民館長・主事が中心となって企画、立案、運営を行い、地域ごとに特色のある活動を展開している。</li> </ul> <p>② 生涯学習推進計画の策定を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習推進計画の策定を行った。</li> </ul> <p>③ 地域の各種団体と連携した事業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文化財施設ガイドのボランティア養成講座や文化協会と連携した文化祭、青少年育成町民会議と連携した行事等、地域における他団体と連携した行事を開催した。</li> </ul> <p>④ 分館活動については、地域の特色を生かした地域活動を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>分館長、主事が中心となって、分館行事の企画・立案・運営を行い、地域に根ざした活動を継続して展開した。</li> </ul>	<p>○ 各地区公民館ごとに特色のある行事を開催することで、地域の活性化に寄与できた。また、行事の開催に際して、人材を発掘したり、地区(町)をこえた行事や指導者の情報提供などの協力関係が生まれている。</p> <p>● 今後も地区公民館ごとに、講座や行事の開催を継続していく。課題としては公民館活動の啓発に関する情報提供手段の拡充である。広報や各館で作成するチラシだけでなく、ホームページの作成等、情報提供媒体の検討を行う。</p> <p>◎ 今後の三豊市の生涯学習の目指すべき姿を示唆した。</p> <p>● それぞれの分野において、推進計画に掲げる目標や課題の解決を目指して事業を推進する。</p> <p>○ 各種団体と連携して行事を行うことで、公民館単独でなく他団体と協力して地域の活性化に寄与できた。</p> <p>● 各種団体との連携については、地域ごとに団体の組織や協力関係が異なるため、今後も検討が必要である。</p> <p>○ 分館活動は地区公民館よりもさらに小さなエリアを対象として展開されており、参加者の交流を通して、地域の活性化に寄与している。</p> <p>● 分館により活動の内容や機会にバラつきがあるため、今後は単年度又は複数年度での活動目標(スローガン)の設定を検討する。</p>	B	

項目	① 自ら学び、生きがい創造する生涯学習の推進	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	◎○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p><b>(2) 社会教育団体連絡協議会等社会教育団体への自立支援</b></p> <p>① 市の方針を外部団体に粘り強く説明し、理解・協力が得られるよう努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参画する3団体以外の社会教育団体に、自主、自立に向け協力依頼及び協議会への参加を依頼する。</li> </ul> <p>② 団体主催事業の都度、自分たちが事業主体であることを認識・活動してもらえよう支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>団体主催事業は各団体が事業主体であることを理解し、運営してもらえようように依頼した。</li> </ul> <p>③ 社会教育団体連絡協議会を中核として、事務局の統合化を通じ、自主、自立を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>支部の3団体に説明会を開催し、自主、自立について協議した。</li> </ul>	<p>○ ほぼ社会教育団体に周知ができた。</p> <p>● 今後さらなる協力依頼をお願いし、自主自立を促す。</p> <p>○ 団体主催事業は各団体が事業主体であることを理解し、全ての事業を自主運営で実施するという理解が得られた。</p> <p>● 事務的な面もすべて各団体が行えるように指導する。</p> <p>◎ 自主、自立について理解が得られた。</p> <p>● 地域性により、団体の自立に問題と課題はあるが、さらに説明し理解が得られるようにする。</p>	B
<p><b>(3) 図書館利用の拡大</b></p> <p>① 市内7図書館(室)をネットワークで繋いだことにより、市内のどこの図書館でも図書を借りることも返却することもできるだけでなく、インターネット等を活用すれば蔵書検索及び予約申込み等が可能なおことについても広く市民に周知し、図書館の利用拡大を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市内図書館のネットワーク化に伴い、蔵書検索及び予約申込み等の機能を広く市民に周知するとともに、その有効活用を図った。また、所蔵館以外に返却された図書等を所蔵館へ返却するため、今まで使送便を利用していたが、図書館独自の回送便業務を実施し利便性を図った。</li> </ul> <p>② 地域の生涯学習や文化活動の拠点として、図書館ボランティアによる「おはなし会」、「おたのしみ会」「ビデオの上映会」等読書に親しむ活動を積極的に行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市内7図書館において、定期的にボランティア等による「おはなし会」や「ビデオ上映会」を実施した。また市内各図書館で読書感想画展、図書交換会、雑誌無料提供、工作教育等特色ある行事を実施した。</li> </ul>	<p>○ 市内図書館のネットワーク化で、蔵書検索及び予約申込等が可能なおことを市民が知ることで、図書館利用の拡大につながった。</p> <p>また、図書館独自の回送便業務を実施したことにより、送付冊数の制限解消や図書の回送時間が短縮されるなど利便性が向上した。</p> <p>● 市内図書館のネットワーク化について、今後は、さらにその利便性について周知に努め、図書館サービスの一層の向上に努める。また、図書館独自の回送便業務も継続して実施し、市民が利用しやすい図書館を目指す。</p> <p>○ 「おはなし会」に参加することにより、定期的に本を借りる親子が増え、読書意欲の喚起につながった。</p> <p>● 図書館行事に参加したことがない人にも来てもらえるよう広報活動をしていく。また読み聞かせ技術向上研修の実施や、市内各館との連携を強め図書館利用の拡大に努める。</p>	B

項目	① 自ら学び、生きがい創造する生涯学習の推進	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	◎○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p>③ 市ホームページ及び市広報紙等を通して、市民への図書館情報を積極的に提供する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市広報、広域広報誌（あみあみ通信、三観通信）、有線放送等による行事等情報を提供した。</li> </ul>	<p>○ 広報やHPからの反響や問合せも増え、図書館利用の拡大につながった。</p> <p>● 今後も広報、周知を積極的に行い、図書館利用の拡大を目指す。</p>	

項目	② 特色ある地域文化の醸成	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	◎○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p><b>(1) 文化財の保存と活用</b></p> <p>① 文化財の状況を適時把握し、史跡・名勝など歴史的・文化的景観を構成する資源においては、周辺の自然環境と一体となった保全と活用に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 宗吉瓦窯跡史跡公園の整備(整理作業室の移転)を行った。</li> <li>・ 市内の遺跡2か所の発掘調査を行った。(継続事業)</li> <li>・ 菅生神社社叢の再生事業(継続事業、平成23年度で終了)を行った。</li> </ul> <p>② 文化財保護審議会・文化財保護協会等の団体と協力して、文化財の保護と情報発信の体制づくりを進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文化財保護協会において、市内及び県外における研修を行い、郷土文化講演会を実施した。</li> </ul> <p>③ 「三豊の歴史・文化」冊子を作成し、文化財を巡る研修や郷土文化講演会を実施するなど、意識啓発を行うとともに歴史・文化に触れる機会を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「古代の三豊」冊子の発刊を行った。</li> </ul> <p>④ 宗吉瓦窯跡史跡公園等の史跡ボランティアの養成を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地元ボランティア団体「宗吉瓦窯会」に施設周辺の管理、ボランティアガイドの実施と合わせて史跡でのイベントの実施を委託した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 宗吉瓦窯跡から出土した遺物等の資料を公園内に移動したことにより、必要となる資料をすぐに取り出せるようにし、業務を迅速化することができた。</li> <li>● 利用者にとって、より利便性の高い施設となるように努める。</li> <li>○ 発掘調査により、遺跡の現状を把握することができ、今後の保存の参考となった。</li> <li>○ 調査報告書の発行により、遺跡の情報を広く周知することができた。</li> <li>● 今後も継続して発掘調査を実施する。(国庫補助事業を活用)</li> <li>○ 再生のための苗木の購入のほか、事業(国庫補助)終了後の管理に関するマニュアルを作成した。</li> <li>● 植樹した苗木が枯れないように、適切に管理するよう事業者に対し指導を行う。</li> <li>○ 研修や講演会により文化財に触れる機会を設けることができ、文化財保護の意識啓発につながった。</li> <li>● 今後も文化財に触れる機会をとらえて団体等と協力し、市民の意識向上のために講演会等のイベントを開催する。</li> <li>○ 冊子の発刊により、市内外に三豊市をPRするとともに、文化財に対する意識の啓発につながった。</li> <li>● 引き続き、時代・ジャンル別に三豊の歴史を取り上げ、冊子を発刊する。</li> <li>○ 市民が率先して史跡と関わりをもつことで、史跡への関心を高めるとともに、文化財保護の意識啓発につながった。</li> <li>● 「宗吉瓦窯会」との連携をより密接なものとし、効率的な施設運営を目指す。</li> </ul>	B

項目	② 特色ある地域文化の醸成	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	◎○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p><b>(2) 芸術・文化の醸成</b></p> <p>① 市文化協会を主体として文化祭等の成果を発表する場を設けることで、目標を持ち個人だけではなく団体としての資質の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市文化協会主催の文化祭「作品展覧会・芸能発表会」を開催。またそれぞれで、アンケートを実施した。</li> </ul> <p>② 市内で活動している団体間の交流を深め、仲間づくりを行うことでより幅の広い文化活動の活性化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市文化協会主催の文化祭「作品展覧会・芸能発表会」を開催。またそれぞれで、アンケートを実施した。</li> </ul>	<p>○ 作品展覧会は仁尾町体育センターで開催した。昨年度よりも多くの人々が訪れていた。また、多様な作品が出品されるようになった。(カービング、ブリザードフラワーなど)</p> <p>● まだ認知度が低いため、開催していることを知らない市民も多い。広報活動に工夫が必要である。</p> <p>○ 団体間で協力することによって、市文化祭を開催することができた。また、他の作品・芸能を鑑賞することで、刺激となっている。</p> <p>● 文化祭をより効率よくするため、また団体間の交流を深めるため、各部門会の立ち上げを検討する必要がある。</p>	C
<p><b>(3) 芸術・文化行事などの情報提供</b></p> <p>① 県との連携を図り、市内学校・施設に対し、文化事業の案内、参加を促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>メール等で周知した。</li> </ul> <p>② 市文化協会活動事業を市広報で案内する等、広く文化団体の活動を紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>会報2号を作成し、全戸配布した。会報には市文化祭の案内を掲載している。また、市広報にも例年どおり、市・町の文化祭の案内を掲載した。</li> </ul> <p>③ 市文化協会報を作成するなど、団体内での情報提供の場をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>会報編集委員会を立ち上げ内容等を検討し、会報2号を作成、全戸配布した。</li> </ul> <p>④ 宗吉瓦窯跡史跡公園開園一周年記念事業、歴史と文化によるまちづくり講演会を開催し文化の振興を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>宗吉瓦窯跡史跡公園落成一周年記念行事を開催した。</li> <li>平城遷都1300年祭の記念事業として講演会を開催した。(2回)</li> </ul>	<p>○ 広く周知できた。</p> <p>○ 「子どものための優れた舞台芸術体験事業」を、4校で開催するとに決定した。</p> <p>● 今後はもっと県との連携をはかり、市内の学校、施設に周知したい。</p> <p>○ 昨年度よりも多くの人々が市文化祭に訪れた。アンケート結果では、「広報を見て訪れた」が一番多かった。</p> <p>● まだ認知度が低いため、広報活動に工夫が必要である。</p> <p>○ 会報1号は全クラブ名を掲載しただけだったが、2号は内容を委員会で検討して作成した。それにより会員の活動の内容が十分理解できた。</p> <p>● 今後も会報を作成する予定である。内容等は編集委員会で協議して決定する。</p> <p>○ 行事、講演会を通じて文化財に対する市民の意識啓発につながり、文化財保護に対する意識が向上した。</p> <p>● 今後とも適宜行事を開催するなど、市民が文化財に親しむことができる機会を提供する。</p>	B

項目	③ 地域の教育力の向上、地域の教育機能の活性化	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	◎○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p><b>(1) 子どもを育てる地域づくり</b></p> <p>① 地区公民館を中心として、世代間交流事業を展開して、地域の歴史・地域の良さを学習することにより、世代間相互で「ありがとう」の感謝の気持ちを培う地域づくりを行う。</p> <p>・ 地域の有志と協力し、週5日制対応事業や子どもを対象とした講座、世代間交流事業など、地区公民館及び分館において活動を実施した。</p>	<p>○ 地域ぐるみで子どもを育てるための組織づくりとして、関係者や有志、他団体との協力体制の確立に寄与できている。また、地域ぐるみで子どもを育てるという意識の啓発に寄与できている。</p> <p>● 成果が目に見えにくいため、今後も地道に事業を継続し、さらなる協力団体や人材の発掘に努める。</p>	C
<p><b>(2) 地域で子どもを育てる指導者養成事業の推進</b></p> <p>① 地域住民や保護者が、生涯教育の理念である「生涯学習」を理解し、子どもの育成のために、地域の教育活動やボランティア活動に積極的に参加できるリーダーの育成を図る。</p> <p>・ 子ども会、PTA、青少年健全育成市民会議等の各団体で連携を取り、研修会・講演会を実施した。</p>	<p>○ 地域の指導者の育成、人材確保が行えた。また各事業に参加された方は「生涯学習」や「子育て」、「学校教育」等に関する理解を深めることができた。</p> <p>● 今後は指導者養成の講座内容、機会の充実を図り、人材の育成・確保に努める。</p>	C
<p><b>(3) 子ども会の育成と支援</b></p> <p>① 自然体験やスポーツ等の様々な体験活動を通じて地域との交流や仲間づくりを行い、豊かな情操教育、子どもたちの主体的な活動支援を図る。</p> <p>・ 各地域で子どもとその保護者を対象に、自然体験やスポーツ等14事業を実施した。</p> <p>② 指導者・育成者に対する研修を通して、子ども会活動の基本理念の浸透、資質の向上を図り、地域の指導者の確保と積極的な活用に努める。</p> <p>・ 新しい指導者を対象に研修会を開催し、子ども会の意義や指導者・育成者の役割について考える場を設けた。</p> <p>③ 子ども会を支援するジュニア・リーダーの養成・確保に努め、リーダーとしての資質の向上を図る。</p> <p>・ 備品貸出やジュニア・リーダーの派遣事業等を実施し、地域行事等への参加・支援を継続して行った。また、研修会を開催し、知識・技術の向上を図った。</p>	<p>○ 各事業に参加した子どもたちは、学校では学ぶことができない地域間・異年齢間での交流、野外活動等貴重な経験を積むことができた。</p> <p>● 組織の効率化、自主運営化等に取り組み、事業の見直し、改善を図りながら継続する。</p> <p>○ 各地域の特色ある子ども会活動について、理解を深めることができた。</p> <p>● 研修会を継続して実施し、子ども会活動の基本理念の浸透、資質の向上を図り、地域の指導者の確保と積極的な活用に努める。</p> <p>○ 地域行事等への参加・支援を行うことにより、ジュニア・リーダーの資質向上を図ることができた。また、研修会を通じて、野外活動等の知識・技術を習得することができた。</p> <p>● 新しいジュニア・リーダー会員の確保に努める。主催事業の内容について、参加者のニーズに応えることができるよう、見直し・改善を図る。</p>	B

項目	④ 家庭の教育力の向上	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	◎○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p><b>(1)家庭教育支援・啓発活動</b></p> <p>① 少子化、核家族化、地域交流の機会が減少する中で、子どもの接し方がわからない、育児に不安を持つ保護者が増える一方、子どもに無関心、過保護者も増えてきており、市内幼稚園、小学校、中学校と連携して講演会等ふれあい事業を実施して、家庭教育の意識の向上と重要性を認識してもらうとともに、家庭における教育力の向上に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家庭教育学級を実施した。</li> </ul> <p>② 保護者と子どもたちが一緒に楽しみ、ふれあい、子どもたちに新たな一面を発見できるような機会や場の提供を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家庭教育学級を実施した。</li> </ul>	<p>○ 15幼稚園・7小学校・2中学校が家庭教育学級を実施した。それぞれが外部講師を招いて、家庭教育の重要性を伝える講演や子育てに関する講演等を行った。それらの講演等により家庭教育の重要性が再認識された。</p> <p>● 今後は家庭教育を継続して実施するとともに、実施園、学校を増やし、家庭教育の大切さを促す啓発活動をさらに推進する。</p> <p>○ 学級の中で親子で作業を行う活動や運動を取り入れ、保護者と子どもがふれあうことができた。</p> <p>● 今後は家庭教育を継続して実施するとともに、保護者と子どもたちがふれあう機会を提供し、家庭教育の大切さを促す啓発活動をさらに推進する。</p>	B
<p><b>(2)子どもの生活リズム向上</b></p> <p>① 「早寝早起き朝ごはん」運動を推進し、子どもの望ましい基本的な生活習慣を育成するとともに、生活リズムを向上させ、読書や外遊び・スポーツなど様々な活動にいきいきと取り組んでもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文部科学省「早寝早起き朝ごはん」国民運動リーフレットを市内の幼稚園・小学校・中学校に配布し、啓発活動を実施した。</li> </ul> <p>② 毎月23日をテレビを見ない「ノーテレビデー」と定め、家族団欒や読書などの機会を増やせるよう推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ノーテレビデーを実施した。</li> </ul>	<p>○ リーフレット等による啓発活動により、子どもたちの望ましい基本的な生活習慣を育成するため、保護者への良い意識付けになった。</p> <p>● 今後も「早寝早起き朝ごはん」等をさらに推進・啓発していく。</p> <p>○ ノーテレビデーを実施することで家族の団欒の時間ができたり、読書の時間が増えた。</p> <p>● 今後も「ノーテレビデー」等をさらに推進していく。</p>	B
<p><b>(3)家庭教育指導者の育成</b></p> <p>① 家庭教育支援事業の計画・実施を行った。市内の幼稚園、小学校で行われる家庭教育講座や家庭教育学級で、家庭教育の重要性や子どもの生活リズムの向上について指導、助言したりするための人材を育成できるよう国や県が開催する講座への参加を促し、啓発活動を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家庭教育推進専門養成講座を受講した。</li> </ul>	<p>○ 県教委主催の家庭教育推進専門養成講座を受講して、推進専門員として親同士の学びを取り入れたワークショップ(参加型学習)の普及等を行った。</p> <p>● 今後は家庭教育の重要性や子どもの生活リズム向上について、指導・助言を行っていく。</p>	B

項目	④ 家庭の教育力の向上	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	◎○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p><b>(4)PTA活動の充実</b></p> <p>① 会員相互の連携を深め、学習活動・レクレーション・社会へのボランティア活動等を積極的に推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導者研修会を実施した。</li> <li>・ 専門委員会・部会に参加し、市内幼稚園・小学校・中学校の連携を強化した。</li> </ul> <p>② 地域社会が一体となって子どもたちの健全育成を図れるよう、学校と家庭・地域社会をつなぐ重要なパイプ役となれるよう努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 青少年健全育成市民会議・三豊ライオンズクラブと協力し、「青少年健全育成講演会」を実施した。</li> </ul>	<p>○ 指導者研修会は、単位PTAの代表者による活動発表があり、自分の地域の活動や実情について交流した。発表された内容が各会員に鮮明に映り、学校区を越えた連携が深まった。</p> <p>● 今後は市PTA組織の連携強化と指導者研修会等を充実して、さらなる資質の向上を図る。</p> <p>○ 大谷昭宏氏による「青少年健全育成講演会」は、多数の参加があり大変好評であった。</p> <p>● 今後は他の青少年育成団体などと協力して、さらなる青少年の健全な育成を推進していく。</p>	B
<p><b>(5)子どもの読書活動の推進</b></p> <p>① 乳幼児から読書に親しむ環境づくりや、家庭、地域社会、学校など社会全体で読書活動推進に取り組むため、三豊市子どもの読書活動推進計画を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員とボランティアが協力して、おはなし会等を定期的開催するなど、読書に親しむ機会を提供した。また、おすすめ本コーナーの設置や季節の本を配置するなど、子どもが利用しやすい読書環境の整備に努めた。「図書館だより」を発行するなど、図書館の利用案内を幼小中へ配布した。また、学校と連携し読書感想文(画)の募集に取組んだ。職員及びボランティアを対象に、技術・知識向上を目指して「おはなし研修会」を開催した。</li> </ul> <p>② 絵本を通して親子が触れ合うブックスタート事業を継続して行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三豊市に住所があるすべての赤ちゃんを対象に、乳児4ヶ月健診後に絵本を手渡した。</li> </ul>	<p>○ ボランティアによる「おはなし会」を定期的開催したことで、子どもたちが図書館に足を運ぶきっかけとなり、読書に対する意欲や関心が高まった。また、おすすめ本のコーナー設置や、「図書館だより」を発行したことにより貸出しが増えた。</p> <p>○ 読書感想画展を実施し、読書を楽しむ機会を提供したことにより、学校等との連携が強くなった。職員及びボランティアを対象とした「おはなし研修会」を実施したことにより、技術や知識の向上につながった。</p> <p>● 今後も「子ども読書活動推進計画」に基づき、家庭、図書館、学校の連携と図書館ボランティアの協力を得て、子どもの読書活動を推進する。</p> <p>○ 赤ちゃん絵本を開く楽しい体験とともに、絵本を手渡すことで、赤ちゃん保護者がゆとり向き合い、楽しいあたたかい時間をもつきっかけをつくった。</p> <p>● 今後もブックスタート事業を継続して行う。</p>	A

項目	⑤ 進んで運動に親しむ機会の充実	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	◎○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p><b>(1)健康・体力づくり事業の推進</b></p> <p>① 色々なスポーツが多様化する中で、手軽に楽しく、健康・体力づくりができるようにニュースポーツの紹介を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ トランポリン教室を小学生対象に開催した。</li> <li>・ カローリング、室内ペタンク、パークゴルフ教室等のニュースポーツ教室を開催した。</li> </ul> <p>② 市体育指導委員会と連携し、スポーツ行事を実施する。また、地域スポーツの支援のために、体育指導委員の資質向上に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ こんびら健脚大会に参加した。</li> <li>・ 秋季県外ハイキング大会を実施した。</li> <li>・ 四国地区及び香川県体育指導委員研修会へ参加した。</li> </ul>	<p>○ ニュースポーツの紹介として、普段教わることのないトランポリンの飛び方を小学生対象に開催することで、バランス感覚の向上や運動することの楽しさを伝えることができた。また、カローリング、室内ペタンク、パークゴルフ等の教室を開催し、幅広い年齢層の人に参加してもらうことで、生涯に渡ってスポーツを続けていくという意識の高揚を図ることができた。</p> <p>● 普段まったくスポーツをしていない人でも、参加したいと思うようなスポーツ企画の立案が必要である。また、市民への周知や開催時期を工夫し、より多くの市民が参加できるように努める。</p> <p>○ 誰にでも参加しやすいものとして、健脚・ハイキングを企画、実施することにより多くの市民の参加が得られた。</p> <p>○ 四国・県・市と研修会に参加することにより、全体的な資質の向上を図ることができた。</p> <p>● 体育指導委員研修会において学んだことを、より一層市民に還元できるよう体育指導委員会運営を行うように努める。</p>	C
<p><b>(2)市長杯等各種スポーツ大会、スポーツ教室の充実</b></p> <p>① 現在、定期的にスポーツに親しんでいる人のために、市長杯等の各種スポーツ大会の開催について、支援協力を行う。また、市民に色々なスポーツに接する機会を増やせるよう、スポーツ教室の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市長杯ペタンク大会ほか、15大会(1月20日現在申請済み)を開催した。</li> </ul>	<p>○ 多くの市長杯大会を開催することにより、多くの市民にスポーツに接する機会の提供ができた。</p> <p>● 多くの市長杯大会を主催したが、企画運営全般を主管団体が行っているため、市民への周知が行えていない。今後は、より多くの市民が参加しやすいように支援する。</p> <p>● 体育協会専門部は様々なスポーツ大会・スポーツ教室を開催し、市民へのスポーツの普及・振興に貢献しているが、さらにスポーツ事業が開催できるようサポートしたい。</p>	C

⑤ 青少年の健全育成			
基本方針	地域で見まもり・地域に教わり・地域で育てる		
項目	① 青少年教育の充実		
具体的な取組内容及び実施した事業内容	◎○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価	
<p><b>(1)少年期の教育</b></p> <p>① 少年の健全な育成を図るため、非行を防止し、明るい家庭と住みよい地域づくりに努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 早朝・午前・昼間・薄暮・特別補導活動、また小学校周辺パトロール等を継続的に実施した。</li> </ul> <p>② 少年の規範意識や社会的な自律意識の向上を図るために、中学生による「一日補導員」体験や喫煙防止・万引き防止キャンペーン等を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「一日補導員」…市内の8中学校から計16人が参加し、ゆめタウン三豊店～JR高瀬駅～三豊警察署を巡回(7月27日)。</li> <li>・ 「未成年者喫煙防止キャンペーン」…市内6カ所のJR駅で実施(7月9日)</li> <li>・ 「万引き防止キャンペーン」…市内の大型商業店舗で実施(8月25日)</li> </ul>	<p>◎ 各学校区ごとに指導・補導體制が拡充され、子どもたちへの指導・補導が図られてきた。</p> <p>● 「薄暮補導」等において、各地区補導員会の自主活動を拡充する必要がある。</p> <p>◎ 各訪問先で、同世代の問題行動の実態を聞き、規範意識や公共マナーの大切さについて、改めて考える機会となった。</p> <p>● 取組み成果と課題の分析(例:持ち帰った実体験をどう広めることができたのか等)が不十分である。</p> <p>◎ 「少年を守る会」や三豊警察署等の関係機関と連携して、チラシ等を手渡すことにより、直接未成年者等に啓発することができた。</p> <p>● キャンペーン期間中に限らず、通年的な啓発活動が必要である。</p>	B	
<p><b>(2)家庭や地域との連携・支援</b></p> <p>① 「教育の根源は家庭にあり」を基本とし、関係機関と連携しながら家庭教育の重要性を訴えとともに、家庭に向けた「子育て支援リーフレット」を作成・配布する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市内の全幼稚園・小中学校において、今年度の新入園児や児童・生徒の保護者へ「子育て支援リーフレット」を配布した。</li> </ul> <p>② 子どもの被害防止に向けて、安全安心パトロールや子ども見守り隊などの地域ボランティア活動に対する協力と支援を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 『三豊市子ども・地域安全見守り隊』研修会の開催(3月)</li> <li>・ 青パト会員を対象とした「運転講習会」の実施(6月・1月)</li> </ul>	<p>◎ この取り組みによって、保護者に対して「基本的な家庭教育のあり方」の重要性について啓発することができた。</p> <p>● 家庭、地域の教育力向上のためには、年度初めの取組みも含めて、関係機関・部署との連携による年間を通した啓発活動が必要である。</p> <p>◎ 各地域の実践活動を通じて、問題点や課題について共通認識を持つことができた。</p> <p>● 今後、隊員の高齢化等の対応を検討する必要がある。</p> <p>◎ 地域の子どもを守る「安全・安心活動」推進の一助となっている。</p> <p>● 地域の横の情報交換をもっと推進する。</p>	B	

項目	① 青少年教育の充実	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	◎○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p>③ 青少年健全育成市民会議により、学校や地域が行う健全育成活動を支援するとともに、あいさつ運動やふれあい活動を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ スポーツふれあい事業(7月31日)</li> <li>・ 「家族ふれあい・あいさつ運動」絵画・標語作品募集と表彰(12月11日)</li> <li>・ 表彰作品による「23年啓発カレンダー」の作成・配布(12月～)</li> <li>・ 善行青少年表彰・健全育成功労者表彰の実施(12月11日)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 参加児童数約130人(市スポーツ少年団と共催事業)</li> <li>○ 応募作品数……「絵画」170点、「標語」2,052作品</li> <li>○ 「善行青少年」の部5(団体・個人)・「青少年健全育成功労者」の部(2人)を表彰した。</li> <li>● 事業内容の拡充、また校区会議等の活動を支援する。</li> </ul>	
-----		
<b>(3)少年育成センターの運営</b>		
<p>① 少年の健全な育成を図り、非行を防止し、明るい家庭と住みよい地域づくりに努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 早朝・午前・昼間・薄暮・特別補導活動、また小学校周辺パトロール等を継続的に実施した。</li> <li>・ 不審者情報のメール配信を実施した。</li> </ul> <p>② 学校・家庭や関係機関・団体との連携強化を図り、中核となって街頭補導と継続指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三豊警察署、常駐補導員、地域補導員、防犯ボランティア団体等と連携を図り、情報交換を行い、安全・安心なまちづくりに努めた。</li> </ul> <p>③ 白ポストによる有害図書等の回収を行うとともに、少年をとりまく環境やたまり場に関する情報交換を密にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「少年を守る会」と連携し、有害図書等の回収を月1回実施している。</li> <li>・ 街頭補導の一環として、市内の商業店舗との情報交換を実施した。</li> </ul> <p>④ 少年が抱える問題や悩みの早期発見・解決を図るために、関係機関・学校・家庭との連携を密にし、来所相談・電話相談・訪問相談の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 少年相談員により、相談活動を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 各学校区ごとに指導・補導體制が拡充され、結果、不審者通報件数の減少など、犯罪発生の抑止効果が表れてきた。</li> <li>● 「薄暮補導」等において、各地区補導員会の自主活動を拡充する必要がある。</li> <li>● メール配信会員の増員に努める。</li> <li>○ 情報の共有化とともに、相互の連携強化につながった。</li> <li>● 今後も地域の安全・安心のため、連携強化に努める。</li> <li>○ 市内17カ所の白ポストから有害図書等を回収し、環境の浄化を図った。</li> <li>● 白ポストの施錠被害等が頻繁に発生しているため、防止対策を検討する必要がある。</li> <li>○ 現状認識の共有化が図れた。</li> <li>● 商業店舗には、少年の非行防止意識を強く持って対応してほしい。</li> <li>○ 関係機関と連携し、継続相談を行うことができた。</li> <li>● 前年度、相談活動を休止していたことから、活動拡充に努める。</li> <li>● 相談環境の整備を必要とする。</li> </ul>	B

項目	① 青少年教育の充実	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	◎○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p>⑤ 青少年の生活行動範囲の広域化・深夜化・多様化に伴い、管外の諸機関との連携を更に強化していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県少年育成センター所長会の定期的開催</li> <li>・ 三観地区中学校生徒指導主事会、西讃高校生徒指導主事会の開催</li> <li>・ 西讃高校合同補導の実施</li> </ul>	<p>○ 県内情報や西讃地区における情報や状況認識の共有化が図られた。</p> <p>● 「県所長会」の継続開催や、「合同補導」の通年的実施が必要である。</p>	

⑥ 人権教育の推進			
基本方針	人権が尊重される住みよい三豊市の実現を目指して		
項目	① 学校人権教育の推進		
具体的な取組内容及び実施した事業内容	◎○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価	
<p><b>(1)保・幼・小・中学校の連携</b></p> <p>① 定期的に行われている保・幼・小・中学校長会や学校人権教育部会において、人権教育の在り方及び取組み等について情報交換を行い連携を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昨年に引続き地域3ブロックに分け、地区学校人権同和研協議会として意見交換を行った。</li> </ul> <p>② 学力・進路支援担当及び人権・同和教育主任の研修会を持ち、人権・同和教育の共通理解を図り連携して取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人権教育教材集活用検討委員会を開き、具体的な教材の検証を行った。就学前部会の組織体制づくりを進めた。</li> </ul>	<p>○ 地域ごとの人権教育の進捗状況が把握できた。</p> <p>● 市全体としての実践をもとにした意見交換の場づくり、及び学校間の連携への取り組みを進める。</p> <p>◎ 一部教材の検証が終わった。また就学前部会の具体的な取り組み方法が決定した。</p> <p>● 市全体としての実践をもとにした研修会や意見交換の場づくりを進める。</p>	B	
<p><b>(2)人権教育の充実</b></p> <p>① 人権教育年間指導計画を作成し、計画的に実施することにより、いじめや差別のない学級・学校づくりに努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各学校ごとの教材の年間活用計画を作成し、それに基づいて実践記録を作成した。</li> </ul> <p>② 実践授業の公開とその評価を行うことで教員の指導力の向上と人権教育の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 父母、祖父母等を対象にした公開授業の実施した。</li> </ul> <p>③ 新規転入職員に対し、研修を実施し、市の実態に学び人権教育の取り組みを見つめなおすことで一人ひとりの資質の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域ブロックごとの部会・研修会で実施した。</li> </ul>	<p>○ 計画により各校とも実践教材が増えてきた。</p> <p>● 計画に基づく全教材の実践を進める。</p> <p>○ 公開授業を通して保護者にも人権を考える場がもてた。事後の討議会では意見交換も含め、よりよい授業の内容の議論ができた。</p> <p>● 実践をもとに、その内容の研修や意見交換を開催していく。</p> <p>○ 新規・転入教員に対して、地域の人権教育の実情の把握や取り組み状況が認識できた。</p> <p>● 市全体としての新転入職員研修会の開催する。</p>	C	

項目	① 学校人権教育の推進	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	◎○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p>④ 社会教育指導員による授業実践の支援により教職員の指導力を向上させ人権教育の充実を図る。</p> <p>・ 地域ブロックごとの研修会等へ参加し、人権教育に関する助言ができた。</p>	<p>○ 指導員の助言により、教職員の指導力向上が図れた。</p> <p>● 学校の開催する人権研修会へ指導員が参加していく。</p>	
(3)人権教育教材集・人権教育紙芝居の活用		
<p>① 市作成の人権教育教材集「人権(じんけん)」の活用やその実践報告集などが、全ての学校で有効に利用されることにより地域や学校間の格差の是正及び解消を図る。</p> <p>・ 市活用検討委員会(年二回)を開催し、実践をもとにした活用方法・内容についての議論を深めた。</p> <p>② 就学前用に作成した4種類の人権教育紙芝居を活用し、幼児への人権・同和教育を推進していく。</p> <p>・ ブロックごとで、実践をもとにした紙芝居教材の研修を行った。市全体としての活用検討の場の体制づくりを進めた。</p>	<p>○ 教材47題のうち9題について、活用方法の実践をもとにした検証ができた。次年度の活用計画の策定ができた。</p> <p>● 全教材の活用方法の分析・検証を行う。</p> <p>○ 次年度において、市全体としての就学前人権教育研究の活用研修体制の計画ができた。</p> <p>● 紙芝居を使った就学前人権教育の研究体制づくりを進める。</p>	B

項目	② 社会人権教育の推進	
具体的な取組内容及び実施した事業内容	◎○得られた成果 ●課題と今後の取組み	評価
<p><b>(1)人権教育の組織活動の推進</b></p> <p>① 市人権教育研究協議会を中心として、児童育成組織や自治会組織、婦人団体等の各種社会人団体で人権研修会等を実施するなど、一般市民の人権・同和教育の推進を図る。</p> <p>・ 研究協議会として各種研修・講演会等へ参加していった。また、小地域で人権講演会を開催した。</p>	<p>○ 人権教育研究協議会会員が県等の研修会、講演会に参加し、人権意識を高めた。</p> <p>● 協議会の自主的な取り組み、また全会員の積極的な行事への参加を呼びかける。</p>	C
<p><b>(2)研修会の充実</b></p> <p>① PTA総会や公開授業の機会を捉え、保護者等への研修会を充実させる。</p> <p>・ 授業参観や公開授業により、保護者が人権教育の授業参加を行った。</p> <p>② 公民館・隣保館等の社会教育施設において、学習活動の充実を図る。</p> <p>・ 公民館や隣保館での講演会や、研修会を開催した。</p> <p>③ 身近な人権問題や参加型学習等の内容の工夫・改善を行う研修会の充実を図る。</p> <p>・ 人権課と共同で定期的な市広報誌に記事を掲載した。</p>	<p>○ 保護者に対して子どもの授業を通じ、人権教育を考える場をつくることができた。</p> <p>● 公開授業等の実践校の拡大、及び保護者参加の増加を図る。</p> <p>○ 人権講演会を開催する公民館が増えた。</p> <p>● 公民館単位で人権講演会等開催の定着化を図る。</p> <p>○ 広報誌等を通じて人権意識の向上が図れた。</p> <p>● 新しい人権啓発資料の作成や、読みやすい広報記事の研究、参加型学習の企画をする。</p>	C
<p><b>(3)人権教育指導者の育成</b></p> <p>① 社会教育関係団体や公民館等の人権教育指導者の研修会や学校・運動団体との交流研修を充実させる。</p> <p>・ 人権教育指導者研修等へ参加した。</p> <p>② 市職員の全員を対象に人権意識・人権感覚の向上のための研修会を継続的に実施する。</p> <p>・ 人事課と共同して職員人権研修を行った。また、職員の意識調査も行った。</p>	<p>○ 県の主催する指導者研修等に参加した。また、担当者が指導者養成講座にも参加した。</p> <p>● 指導者研修等への参加者の増加を図る。</p> <p>○ 研修会の定着が図れてきた。</p> <p>● 研修内容の検討、及び参加しやすい体制の工夫を進める。</p>	C

# 資 料

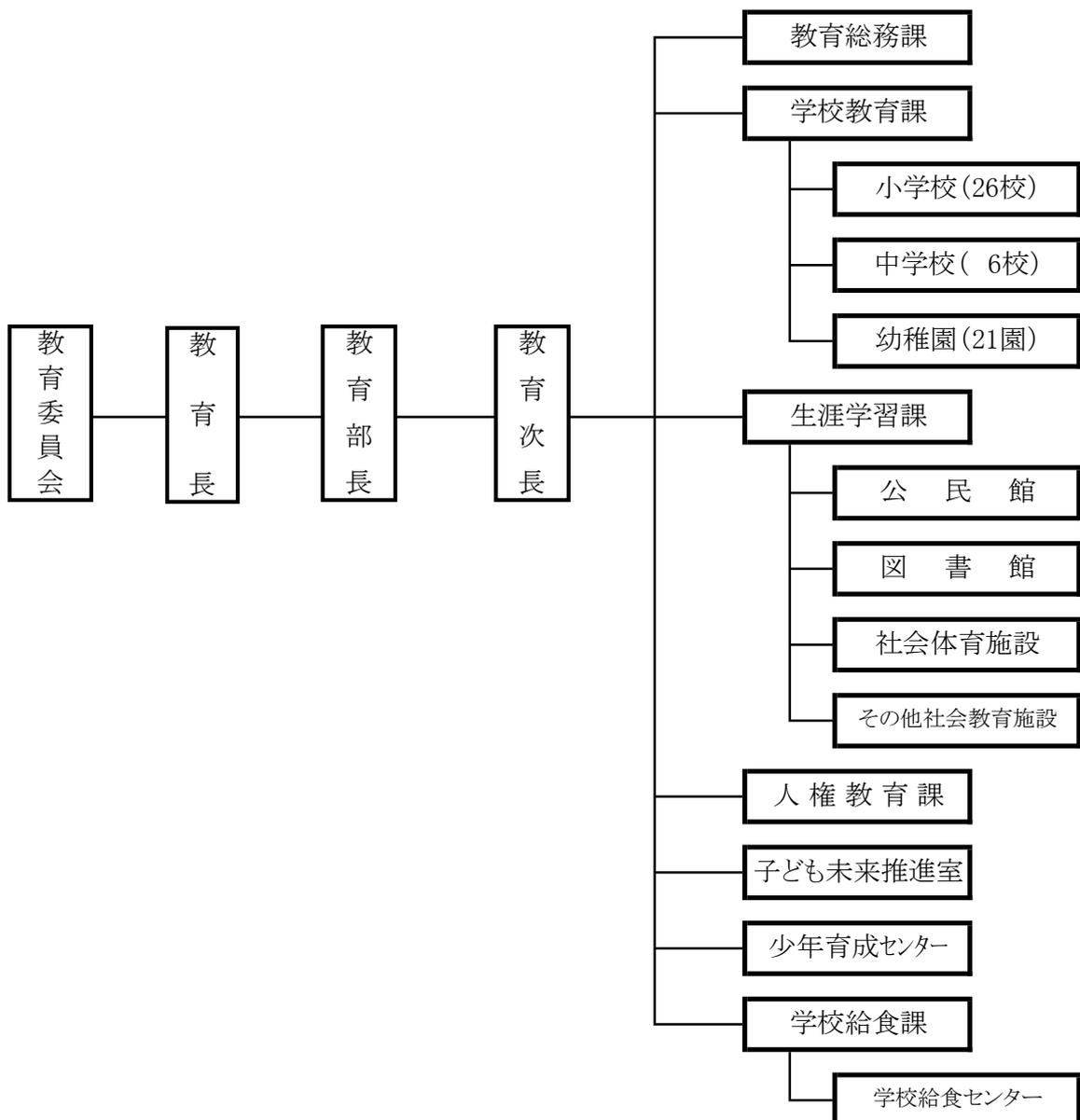
## 1 教育委員会委員及び組織

### (1) 教育委員会委員

職 名	氏 名	教育委員の任期	
委 員 長	高 木 謙 一	平成22年3月1日	～ 平成26年2月28日
委員長代理	建 林 伊 都 子	平成20年2月29日	～ 平成24年2月28日
委 員	三 池 幸 恵	平成21年3月1日	～ 平成25年2月28日
委 員	山 崎 隆 行	平成22年3月1日	～ 平成26年2月28日
教 育 長	白 杵 正 明	平成23年4月1日	～ 平成27年3月31日

### (2) 教育委員会の組織

(平成23年4月1日現在)



## 2 公立学校施設の概要

### (1) 小学校

平成22年5月1日現在(単位:人、室、㎡)

学校名	学級数	児童数	本務教員数	本務職員数	建物面積		屋外運動場
					校舎	屋内運動場	
上高瀬小学校	9	214	15	4	3,744	692	15,095
勝間小学校	10	204	18	4	3,259	792	11,359
比地小学校	8	178	14	3	2,811	1,209	21,352
二ノ宮小学校	7	109	11	3	2,847	694	6,912
麻小学校	8	126	13	2	3,299	741	8,204
辻小学校	8	101	12	6	2,066	772	5,281
河内小学校	6	50	8	6	1,924	521	3,318
大野小学校	8	127	13	4	2,918	636	5,472
神田小学校	6	62	10	6	2,299	543	4,621
大見小学校	7	186	11	2	3,558	944	11,743
下高瀬小学校	8	209	14	4	7,867	①1,222	8,778
吉津小学校	7	168	12	4	3,527	922	17,357
桑山小学校	7	138	11	2	2,027	836	5,869
比地大小学校	6	95	9	4	1,803	836	5,308
笠田小学校	7	143	11	3	2,223	843	7,956
上高野小学校	8	132	14	4	2,224	836	7,820
本山小学校	6	146	10	3	2,275	729	6,334
松崎小学校	8	168	16	5	3,695	560	3,244
詫間小学校	20	499	32	10	6,583	996	9,889
大浜小学校	5	34	7	2	1,959	②1,091	10,749
箱浦小学校	5	20	6	2	1,738	519	4,300
栗島小学校	平成16年度より休校				1,119	-	1,424
仁尾小学校	14	320	23	6	5,871	962	12,565
曾保小学校	7	38	8	3	1,719	587	3,154
財田上小学校	8	108	12	2	2,417	700	5,131
財田中小学校	6	89	9	3	2,085	619	4,342
計	199	3,664	319	97	77,857	19,802	207,577

① 下高瀬小学校の屋内運動場は、三野町体育センターが兼ねている。

② 大浜小学校の屋内運動場は、みどりの村管理センターが兼ねている。

## (2) 中学校

平成22年5月1日現在(単位:人、室、㎡)

学校名	学級数	生徒数	本務教員数	本務職員数	建物面積		屋外運動場
					校舎	屋内運動場	
高瀬中学校	15	419	33	7	8,410	1,805	13,676
三野津中学校	11	252	24	4	6,686	1,035	13,396
豊中中学校	11	291	25	5	4,706	③3,389	10,930
詫間中学校	12	326	27	7	7,961	2,059	13,620
粟島中学校	平成18年度より休校				969	350	1,207
仁尾中学校	8	168	19	3	4,606	898	15,781
和光中学校	6	102	14	3	3,933	1,442	10,562
計	63	1,558	142	29	37,271	10,978	79,172

③ 豊中中学校の屋内運動場は、豊中町体育館が兼ねている。

## (3) 幼稚園

平成22年5月1日現在(単位:人、室、㎡)

幼稚園名	学級数	園児数	本務教員数	本務職員数	建物面積	運動場面積
上高瀬幼稚園	4	78	7	-	783	2,438
勝間幼稚園	3	58	6	-	678	1,605
比地二幼稚園	4	70	7	-	651	778
二ノ宮幼稚園	3	50	5	-	486	1,346
麻幼稚園	3	53	7	-	873	541
辻幼稚園	3	43	5	-	551	778
河内幼稚園	3	15	6	-	382	897
大野幼稚園	3	34	6	-	590	1,110
神田幼稚園	3	18	4	-	415	894
大見幼稚園	3	72	5	-	857	2,751
下高瀬幼稚園	3	58	5	-	751	1,405
吉津幼稚園	3	57	5	-	832	2,094
豊中幼稚園	11	264	21	1	2,941	2,420
松崎幼稚園	3	41	5	-	531	1,891
詫間幼稚園	6	95	8	-	1,181	770
大浜幼稚園	1	6	2	-	668	511
箱浦幼稚園	1	3	3	-	363	157
粟島幼稚園	平成13年度より休園				226	262
平石幼稚園	6	111	8	-	1,141	1,800
曾保幼稚園	2	12	4	-	402	472
財田幼稚園	5	88	8	1	825	400
計	73	1,226	127	2	16,127	25,320

